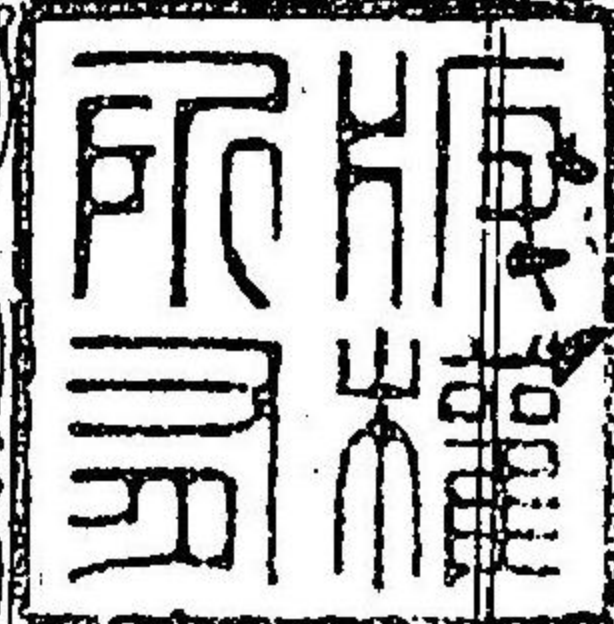


明治十年九月印行

歐州各國憲法

元老院藏



C211

05

近日本院ニ於テ上板スル所ノ諸書ハ其艸稿或ハ舊左院中
編纂ノ引續キニ係ル者アリ又他人著譯ノ原稿ヲ本院ノ用
ニ供セシ者アリ而シテ本院ノ爲若クハ本院委員特別事件
調査ノ爲外國人及譯官ヲシテ繙譯セシメタル者アリ其書
タル固リ悉ク體制完備シテ字句ノ妥當ナル者トス可ラス
ト雖モ寫本ノ儘ニ之ヲ存スルハ他ノ文書ニ混同シテ散
佚シ易ク且數員共ニ觀ント欲スル時ハ傳寫ノ勞ト費トア
リ而モ猶謬誤アルヲ免カレス依テ以爲ラク若シ之ヲ上板
スレハ音ニ一舉シテ此諸弊ヲ免カル、ノミナラス本院ノ
用ニ供シテ尙餘リアレハ之ヲ書肆ニ付シテ以テ世上ニ傳

へ并テ人ノ知識ヲ開キ世ノ開明ヲ進ムルニ於テ當ニ裨補
ナキニ非サル可シト乃チ之ヲ上板セシム校閲ノ際又多時
ヲ費スニ由ナシ若シ其尙謬誤アルカ如キモ讀者幸ニ深ク
答ルヲ勿レ

各國憲法序

佛人拔多比氏。序刺歌兒里兒氏所輯歐米國憲。有云。二十年來。
人之干涉政事者。其數大增。此言也。距今十年前。爲佛國而發者。
其言果信。則今日於我日本。曰干涉政事者之數大增。孰不信之。
曩也。全不論政事。或論之甚寡。而今則銳意講究。孳々不息。曰何
爲政府真正本原也。曰何爲好政府喫緊元行也。曰何爲治者與
被治者之關係也。曰何爲威力及權利之界限也。曰何爲政體之
最好者。而宜於令億兆享康寧之福也。此數者。無不與國憲相干
涉。而國憲者。固爲今日之最大問目也。凡國之欲改且良其政事
者。固不宜試其未定者於民。而又幸有諸國之憲法。試之於地球

上各部。可以見所謂君治民治及君民治之大體。則彼國憲諸書。不可不考焉。今就此諸國憲。撰一最好且可最多適用者。則如宜以此爲一箇模型。悉廢其他。而其竟不可者。何乎。環視各國。決無有二箇之國全同。而可用同一憲法者。是以。方新建制度。或改舊制之初。宜知者。如國民之特質。如世襲現有之權利。及其經沿革而變者。如人智開明之現狀。如某々。皆政事家之所宜細考之。而深留意。不然則其禍將有慘烈異常者矣。蓋如此者之不察。則此并正理與天理而棄之也。若就外國憲法而考之。則有某事甚可用者。有某事不可用且甚多害者。又有此國所缺而他國補之者。悉參互而比較之。則其宜用者無不在焉。而其不可用者。亦可以

見也。故今輯本院譯士所譯。印以傳于世。而予任校正之役。凡歐洲大國。則畧備。而其既單行者。則闕如也。

明治十年九月

議官細川潤次郎撰

歐洲各國憲法目錄

西班牙國憲

瑞士國憲

葡萄牙國憲

荷蘭國憲

丁抹國憲

伊太利國憲

獨逸國憲

奧地利國憲

西班牙國憲



西班牙國憲 千八百五十四年五月二十三日公布
復興ス

第一篇 西班牙人

第一條 左ニ掲クル者ヲ西班牙人トス

第一 凡ソ西班牙國內ニ生ル、者

佛國

ラフェリエール

纂輯

同

バトビ

訂正

大書記生 田中耕造

譯述

議官 細川潤次郎

校閱

第二 凡ソ西班牙國外ニ生ル、ト雖ヒ西班牙國人ヲ
父トシ若クハ母トスル子女

第三 歸化ノ免狀ヲ得タル外國人

第四 歸化ノ免狀ヲ得スト雖ヒ王國ノ邑内ニ於テ國
民權即チ享有シタル外國人

外國ノ籍ニ入り及ヒ國王ノ允許ヲ經スシテ外國政府ニ

於テ官職ヲ受ケタル者ハ西班牙人ノ分限ヲ失フ

歸化免狀若クハ國民權ヲ得タル外國人ノ享有ス可キ權
理ハ法律之ヲ定ム

第二條 凡ソ西班牙人ハ法律ヲ遵守スルニ於テハ豫メ監

查ヲ受クルコトナク自由ニ其思想ヲ印刷公行スルコトヲ得
一 增補律例第
一條參看

第三條 凡ソ西班牙人ハ法律ニ定メタル規程ニ循ヒ上言
書ヲ國會及ヒ國王ニ奏呈スルノ權ヲ有ス

第四條 全王國ニ於テ同一ノ法典ヲ準用ス可シ

第五條 凡ソ西班牙人ハ其器能ニ應シ文武官吏タルコトヲ
得

第六條 凡ソ西班牙人ハ法式ノ徵募ニ膺リ兵器ヲ擁シテ
本國ヲ防護シ及ヒ私有ノ財產ニ比例シテ國費ヲ支ユル
ノ義務ヲ有ス

第七條 凡ソ西班牙人ハ法律ニ定メタル時機ニ際シ及ヒ法律ニ示セル規程ニ循フニ非レハ之ヲ禁獄、囚捕、拘引シ及ヒ強テ其屋戸ヲ打開スルヲ得ス

第八條 變異ノ時機ニ際シ國安ヲ保ツカ爲メノ故ニ王國ノ全部若クハ局部ニ於テ暫ク前條ノ例則チ停ムルヲ必要スル時ハ法律ニ依テ之ヲ處置ス可シ

第九條 凡ソ西班牙人ハ當該ノ裁判官若クハ裁判所ニ非サレハ縱令既定ノ刑法ニ依リ及ヒ其法ニ依テ定ムル所ノ規程ニ循フ之ヲ糾治裁審スルヲ得ス

第十條 財産沒収ノ刑ハ以後之ヲ廢ス凡ソ公規ニ依リ其

公益タルヲ證驗スルモ仍ホ應當ノ前償ヲナスニ非サレハ之カ財産ヲ奪フヲ得ス

第十一條 カトリック羅馬正教ヲ以テ西班牙國教トス該法教及ヒ教僧ハ政府之ヲ存養ス可シ

第二篇 コングレス國會

第十二條 法律ヲ制定スルノ權ハ國會ト國王トニ屬ス

第十三條 國會ハ同權ヲ有スルニツノ立法院ヲ以テ成ル即チ元老院及ヒ代議士院ナリ

第三篇 元老院

第十四條 元老議官ハ定員ナシ之ヲ命スルハ國王ノ權ニ

屬ス

第十五條 齡三十歳ニ滿テ且左ニ開列スル部類ニ入ル西

班牙人ニ限リ元老議官タルヲ得

第一 立法議院ヲ代議士院ノ議長

第二 國會ニ撰ハレタルヲ三回ニ及ヘル元老議官若

クハ代議士

第三 執政官ミニストル

第四 參議官コンセイユエーダー

第五 「アンシユヴェーシ」大教長

第六 「エヴェーシ」教長

第七 西班牙國ノ貴族

第八 陸海軍ノ大將カピターヌマゼナラル

第九 陸海軍ノ中將リヴトアンゼナラル

第十 特命全權大使アンハツサドラル

第十一 全權公使ミニストルプレニポダシエール

第十二 上等裁判所ノ議長

第十三 上等裁判所ニ隸屬スル裁判官及ヒ檢職ノ官吏

第一項ヨリ第十三項マテノ部類ニ入ル者ハ仍ホ其私有財産若クハ裁判ニ由ルノ外剝奪スルヲ得サ

ル官俸若クハ老功兵恩贈金或ハ退老金ヨリ生スル
三萬「レオ」ノ貨幣ノ歳入アルヲテ證明ス可シ

第十四 「カスチーイ」ノ貴族ニシテ歳入六萬「レオ」アル者

第十五 少クモ一歳前ヨリ直税八千「レオ」ヲ納レ且ツ前キニ元老議官、代議士、州議員及ヒ人口三萬アル都府ノ「アルカド」各都府ニ在テ或ハ州會若クハ商法裁判所ノ議長ニ任セシ者

右元老議官ニ任スル爲メノ要款ハ法律ニ依リ修正スルヲ得

第十六條 元老議官ヲ命スルハ特別ノ王勅ヲ以テス但シ該王勅ニハ前條ニ準シ議官ニ任スル憑據トスル本人ノ官爵ヲ記載ス可シ

第十七條 元老議官ハ終身在職スル者トス

第十八條 王子及ヒ太子ノ子ハ齡二十五歳ニ至リテ元老議官ニ任ス

第十九條 元老院ハ立法權ヲ受用スルノ外左ノ三件ヲ掌ル

第一 代議士院ヨリ論告セラレタル執政官ヲ裁判スル事

第二 國王ノ身體若クハ權威ニ對シ又ハ國安ニ對スル重罪犯ヲ法律ニ定メタル所ニ循ヒ裁判スル事

第三 法律ニ定メタル時機ニ際シ及ヒ之ニ定メタル規程ニ循ヒ元老議官ヲ裁判スル事

第四篇 代議士院

第二十條 代議士院ハ選舉會法律ニ依リ定メタル規程ニ

循ヒ命スル所ノ議員ヲ以テ成ル但シ人口五萬ニ付キ少

クハ代議士一名ヲ出ス可シ增補律例第十四條參看

第二十一條 代議士ハ直接投票法ヲ以テ選舉ス國民直チ

級選舉人ノ別選舉人上且永久之ニ重選セラル、トチ得可

シ

第二十二條 代議士トナルニハ西班牙人ニシテ俗藉ニ入

リ僧侶ニ非カ齡滿二十五歳ニシテ私有地ヨリ生スル歳

入アルトチ證明シ又ハ選舉法ニ定ムル金額ノ直稅ヲ納

レ及ヒ國法ニ掲クル其他ノ要款ヲ備具スルヲ要ス

第二十三條 凡前條ニ舉クル分限ト要款ヲ備具スル西班牙

人ハ何レノ州ニ於テモ代議士ニ選任セラル、トチ得

第二十四條 代議士ノ任期ハ五ケ年トス

第二十五條 政府若クハ王家ヨリ賜フ所ノ恩賜金又ハ代

議士本務外ノ官職代議士院職制外ノ官職ヲ俸給アル理

事員若クハ尊稱爵位アル代議士ハ改メテ其選舉ヲ受ク
可シ

此ノ條則ハ執政官ニ撰用セラレタル代議士ニ準用セス

第五篇 國會ノ會期及ヒ職掌

第二十六條 國會ハ每歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及ヒ

會期ヲ中止シ或ハ代議士院ヲ散解スル等ノ權ハ國王ニ

屬ス增補律例第六條參看

第二十七條 國會ハ王祚缺位ノ時又ハ事由アリテ國王政

ヲ親ラスルコ能ハサル時ハ必ス之ヲ召集ス可シ

第二十八條 立法院ハ總テ犯律ヲ正フスル爲メニ其内制

ヲ決定シ及ヒ議員ノ分限ヲ監査ス又代議士院ハ代議士
選舉ノ當否ヲ判決ス

第二十九條 代議士院ハ其議長副議長及ヒ書記官ヲ撰任
ス

第三十條 元老院ノ議長副議長ハ國王之ヲ該院議官ヨリ

撰拔シ議員ノ任期間代議士員ノ任期第二十四條ニ見ユ其職ニ任ス書記

官ハ元老院自ラ之ヲ撰ム

第三十一條 國王ハ親ラ國會ノ開閉ヲ宣告ス否ラサレハ

執政官ヲシテ之ヲ宣告セシム

第三十二條 立法院ノ一ヲ集會セシムル時ハ必ス其他ノ

二院ヲ集會セシム但シ元老院裁判權ヲ行フ時ハ此限ニ非ス

第三十三條 立法院ハ兩院共ニ會スルモ又ハ別ニ會スルモ國王ノ前ニ於テ論議スルヲ得ス

第三十四條 元老院及ヒ代議士院ノ會議ハ公行トス亦タ特異ノ時機ニ際シテハ秘密會議ヲ開クヲ得可シ

第三十五條 國王及ヒ立法各院ハ法律起草ノ權ヲ有ス

第三十六條 租稅及ヒ國債ニ關スル法律ハ先ツ之ヲ代議士院ニ下附ス可シ

第三十七條 凡ソ決ヲ舉ルハ兩院皆公評ノ過半數ヲ以テ

ス法律ヲ公評スルニハ各院其全議員ノ半數ヨリ多キ出席アルヲ要ス

第三十八條 立法兩院ノ一ニ於テ斥ケラレ又ハ國王ノ可ト爲サ、ル法律議案ハ其議員任期中再ヒ之ヲ進ムルヲ得ス 增補律例第七條參看

第三十九條 國會ハ國王ト共ニ受用スル立法權ノ外左ニ掲クル職掌ヲ有ス

第一 國王、太子、王國攝政官一員ニ若シハ攝政一員ニシテ國憲及ヒ法律ヲ遵守スルノ誓詞ヲ宣ヘシムル事

第二 國憲ニ掲ケタル時機ニ於テ王國ノ攝政若クハ攝政官ヲ選舉シ及ヒ未成年ナル國王ノオニエラサル太保ヲ命スル事

第三 代議士院ヨリ論告セラレテ元老院ノ裁判ヲ受ケタル執政ノ責罰ヲ實行スル事

第四十條 元老議官及ヒ代議士ハ其職ヲ執行スル爲メ發シタル論說公評ノ故ヲ以テ之ヲ侵スコトヲ得ス

第四十一條 元老議官ハ其現行犯罪ニ由リテ拘捕セラレ、時又ハ元老院ノ集會セサル時ノ外豫メ元老院ノ決定ヲ經スシテ之ヲ糺治シ又ハ囚捕スルコトヲ得ス

然レモ何レノ場合ヲ論セス至急ニ議官ヲ糺治シ若クハ囚捕スル時ハ之ヲ元老院ニ報知シ以テ該院權限ノ處分ヲ爲サシム代議士モ亦其現行犯罪ニ由リ拘捕スルノ外代議士院ノ許認ナケレハ會期間ニ之ヲ糺治シ又ハ囚捕スルヲ得ス然レモ現行犯罪ニ由リ囚捕シ及ヒ會期ヲ閉ツルノ後糺治又ハ囚捕スルニ於テモ至急ニ之ヲ代議士院ニ報知シ該院ヲシテ該件ヲ查照シテ之ヲ處分セシム可シ增補律例第八條參看

第六篇 國王

第四十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可カラス又責

任トスル所ナシ

執政ハ責任アリ

第四十三條 法律ヲ執行セシムルノ權ハ國王ニ屬ス凡ソ國憲及ヒ法律ニ依準シテ内國ノ康寧ヲ保チ外國トノ平和ヲ存スル等ニ係ルコトハ皆其權内ニ在リ

第四十四條 國王ハ法律ヲ制可シ及ヒ之ヲ公布ス

第四十五條 國王ハ其國憲ニ依テ認許セラル、所ノ特權ノ外猶ホ左ニ掲クル權ヲ執行ス

第一 法律ノ執行ニ關スル王勅條例并ニ訓狀ヲ下ス事

- 第二 全王國ニ於テ審判ヲ督責シ及ヒ之ヲ看守シテ其決行ヲ充分ナラシムル事
- 第三 法律ニ照シ罪人ヲ赦宥スル事
- 第四 戰ヲ宣シ和ヲ講スル事但シ之ヲ爲スノ後其必要ナル説明及ヒ文牒ヲ國會ニ告示セサル可カラス
- 第五 軍隊ヲ整備シテ便宜ニ之ヲ派遣スル事
- 第六 外國政府ト政治ノ交際及ヒ貿易ノ交際ヲナス事
- 第七 貨幣ノ鑄造ヲ指揮シテ自己ノ肖像及ヒ名ヲ模寫セシムル事

第八 施政各局ニ準備スル資金ノ用法ヲ命令スル事

第九 凡ソ官吏ヲ命シ及ヒ法律ニ依準シテ諸種ノ榮章ヲ賜フ事

第十 自由ニ執政ヲ命シ及ヒ之ヲ免スル事

第四十六條 國王左ノ件ヲ行フニハ特別ノ法律ニ依ラサルヲ得ス

第一 西班牙國土ノ部分ヲ賣、易、讓與スル事

第二 外國兵隊ノ王國ニ入ルヲ許ス事

第三 攻、敵、盟、約、同盟、國、ト、合、フ、テ、外、貿、易、契、約、及、ヒ、外、國、
ト、レ、イ、テ、ダ、リ、フ、ン、シ、オ、ツ、フ、ン、シ、ア、ン、シ、ア、 助銀ヲ給スル契約ヲ准定スル事

第四 太子ノ爲メニ王位ヲ辭スル事 增補律例第九條參看

第四十七條 國王ハ婚姻ヲ約スルノ前其意ヲ國會ニ示シ其條約ヲ承認シ以テ法律トナスヲ得セシム可シ
王位ヲ繼ク可キ者ノ婚ヲ約スルモ亦前條ノ規例ヲ遵守ス可シ

國王及ヒ王位ヲ繼ク可キ者ハ法律ニ循ヒ王位繼承ノ權ヲ剝カル、者ト婚ヲ約スルヲ得可カラス

第四十八條 國王及ヒ王族ノ費用ハ各王臨御ノ始メ國會ニ於テ之ヲ定ム

第七篇 王位ノ繼承

第四十九條 「ブルボン」家ノ公主「イザベル」第二世ヲ以テ西班牙國正統ノ女王トス

第五十條 西班牙國ノ王位繼承ハ嫡長入嗣ノ正序ニ循フ
乃チ尊系ハ卑系ニ先タチ同系ニ於テハ近族疎族ニ先タチ同族ニ於テハ男女ニ先タチ同類ニ於テハ長少ニ先タツ

第五十一條 「ブルボン」家ノ公主「イザベル」第二世ノ正統裔ノ系絶ユル時ハ「イザベル」ノ妹及ヒ「イザベル」ノ父ノ伯叔父母、兄弟姉妹并ニ其後裔ニシテ王位繼承ノ權ヲ剝カレサル者男女ヲ論セス 男女均シク王位前條ニ定メタル順

序ニ依リ王位ヲ繼カシム可シ

第五十二條 王位ヲ繼シ可キ親ノ系全ク絶ユル時ハ法律ニ依テ最モ國家ニ便利ナル條則チ定ム可シ

第五十三條 政ヲ親ラスルノ任ニ適セサル者若クハ王位繼承ノ權ヲ失フ可キ狀アル者ハ法律ニ依リ其權ヲ剝カレ可シ

第五十四條 女主王位ニ在ル時其夫ハ決シテ王國ノ政治ニ與ル可カラス

第八篇 國王ノ未成年ノ事及ヒ攝政官

第五十五條 國王ハ滿十四歳ニ至ルマテ未成年トス

第五十六條 國王未成年ナレハ王ノ父若クハ母攝政ノ職ニ任ス父母共ニ缺クル時ハ國憲ニ定メタル王位繼承ノ次序ニ循ヒ王ノ最親ノ者之ニ任ス而シテ攝政ハ國王未成年ノ間ハ常ニ其職ヲ執行ス可シ

第五十七條 王ノ最親ノ者攝政職ヲ行フニハ滿二十歳ノ西班牙人ニシテ王位繼承ノ權ヲ剝カレサル者タルヲ要ス

國王ノ父若クハ母其鰥寡タルノ間ハ獨リ攝政職ヲ行フヲ得可シ

第五十八條 攝政ハ國會ノ前ニ於テ未成年ノ國王ニ忠誠

ヲ効シ及ヒ國憲ト法律トヲ踐守スルノ誓詞ヲ宣フ可シ
國會未タ會セサル時ハ攝政即時ニ之ヲ召集ス可シ此時ニ在テハ先ツ假リニ執政議會ノ前ニ於テ誓詞ヲ宣ヘ仍ホ國會ノ會シタル時直チニ之ヲ申ヌルヲ約ス可シ

第五十九條 攝政職ヲ屬ス可キ者ナキ時ハ國會ヨリ三員若クハ五員ノ攝政議會ヲ任ス可シ

執政議會ハ攝政議會ノ員ヲ任スルノ日ニ至ルマテハ假リニ國政ヲ行フ可シ

第六十條 國王政ヲ親ラスルヲ能ハスシテ國會ニ於テ其情實ヲ認メタル時ハ其之ヲ能スルニ至ルマテノ間攝政

職ヲ王ノ長子滿十四歳ニ至レル者ニ委ス可シ若シ其缺
シル時ハ之ヲ王ノ配偶者ニ委ス可シ亦タ其缺シル時ハ
之ヲ其攝政官ニ任セラル可キ者ニ委ス可シ

第六十一條 攝政及ヒ攝政議會ハ豫定シタル時機ニ於テ
國王ノ全權ヲ行フ但シ總テ政令ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ
公布ス

第六十二條 先王ノ遺言ヲ以テ指定シタル者有テ其人西
班牙國ノ産ナレハ未成年ナル國王ノ太保タル可シ既ニ
命セラレタル太保ナキ時ハ國王ノ父若クハ母其寡寡タ
ルノ間太保タル可シ又王ノ父母共ニ缺ケタル時ハ攝政

ヲ任スルノ權ヲ國會ニ屬ス可シ然レモ國王ノ父若クハ
母タル者ヲ除クノ外攝政ト太保トノ官ニ兼任スルヲ得
得ス

第九篇 執政

第六十三條 國王其ノ權ヲ執行スル爲メ命令スル所ノ諸
文書ニハ當該ノ執政副署ス可シ何レノ官吏モ須要ナル
副署ヲ缺キタル命令書ヲ執行ス可カラス

第六十四條 執政ハ元老議官若クハ代議士ニ兼任シ仍ホ
立法兩院元老議院ノ論議ニ參スルヲ得然レモ公評ハ
其任ヲ受ケタル立法院ニ於テスルニ非サレハ之ヲ行フ

ヲ得ス

第十篇 司法權

第六十五條 民事刑事ニ於テ法律ヲ施行スルノ權ハ特ニ上下等裁判所ニ屬ス增補律例第一條參看然レモ上下等裁判所ハ審判及ヒ審判ノ決行ヲ看守スルノ外他ノ職掌ヲ行フヲ得ス

第六十六條 上下等裁判所ノ數並ニ種類各裁判所ノ構制、權任其權任ヲ執行ス可キ方法及ヒ裁判官ニ屬ス可キ權理等ハ法律之ヲ定ム

第六十七條 刑事ノ裁判ハ法律ニ於テ定ムル所ノ規程ニ

循ヒ之ヲ公行ス可シ

第六十八條 凡ソ裁判官ハ決行ス可キ審判ヲ以テスルノ

サンタンスエキセクニトアル

外有期若クハ無期ノ時間其職ヲ褫ハル、ヲ無シ又司法官ノ決裁裁判所ノ議長若クハ上等ヲ以テスルカ又ハ國王令ヲ下シ且ツ憑據ヲ帶ヒテ罪狀アル裁判官ヲ當該ノ裁判所ニ訴告スル時ノ外裁判官ノ職ヲ停止スルヲ得ス
第六十九條 凡ソ裁判官法律ニ違犯スルコトアル時ハ各自其責ニ任ス

第七十條 審判ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ行フ

第十一篇 州會及ヒ邑會

第七十一條 每州ニ州會ヲ置ク可シ但シ州會ノ員ハ法律ニ定メタル規程ニ循フテ之ヲ選舉シ法律ニ掲ケタル定員ヲ以テ之ヲ構制ス

七十二條 府ニハ「アルカド」第十五條第五項ニ見ユ及ヒ邑會ヲ置ク可シ但シ邑會ノ議員ハ法律ニ依リ選舉ノ權ヲ得タル者之ヲ命ス可シ增補律例第十三條參看

七十三條 州會邑會ノ構制、職掌及ヒ政府ノ委員州邑會ニ參與スルノ權等ハ法律之ヲ定ム
ニ 參與スルノ權等ハ法律之ヲ定ム
下ロアダンテラバレンオン

第十二篇 租稅

第七十四條 政府ハ每歲翌年ノ國費豫算ノ槩表及ヒ國費

ヲ支ユ可キ方法ノ意見書ヲ國會ニ送致ス可シ且租稅ノ徵收及ヒ其費用ノ報告書ヲ國會ニ併セ送り以テ其檢査ト承認ヲ受ク可シ

第七十五條 何レノ租稅若クハ入府稅府内ニ輸入スルニ物品ニ課スル稅ニテモ歲計豫算表ノ法律若クハ其他ノ特別ノ法律ヲ以テ許認スルニ非サレハ之ヲ賦課徵收スルヲ得ス

第七十六條 政府ノ所有ヲ賣リ或ハ之ヲ易ユルヲ若クハ國民ノ責任ニ關セル國債ヲ約スルニハ亦前條ノ許認ヲ欠ク可カラス

第七十七條 國債ハ國民ノ特別ナル保固ニ賴ル代議士員等每歲論

議公評シテ法律ヲ定メ歲計豫算表ニ因リ漸ク國債ヲ償還スルヲ云フ

第十三篇 兵力

第七十八條 國會ハ每歲國王ノ起議ニ據リ海陸常備兵ノ表簿ヲ制定ス可シ

追加條例

第七十九條 海外ノ屬州ハ別法之ヲ統治ス

附錄

王勅

朕執政議會ノ説明スル理由ヲ熟考シテ左ノ件ヲ命令ス

第一條 千八百四十五年五月二十日二十三日ノニ公布シタル西班牙國憲ヲ復興ス

第二條 國會ノ朕ト共ニ須要ナル例規ヲ定ムルニ至ルマテハ左ニ掲クル増補律例ニ依リ國憲ヲ修正ス可シ但シ該増補律例ハ此王勅ヲ公布シタル日ヨリ該國憲ノ部ニ列スル者トナシテ之ヲ遵守執行ス可シ

千八百五十六年九月十五日王宮ニ於テ決定ス

女王手カラ署名ス イザベル

執政議會ノ長

レオポール、オド子ル

西班牙國憲ノ増補律例

第一條 凡ソ著刻犯ノ輕重ヲ定ムルハ法律ニ定メタル特例ノ外陪審官之ヲ行フ

第二條 國憲第八條ニ掲クル法律ヲ公布スルノ後該法律ヲ準用スル地方ハ同上ノ國憲第七條ニ掲クル權理人及ヒ住居ヲ停ムルノ間ハ既成ノ保安法ロアードロルビニアリック國平安ヲ保ツテ不侵ノ權ヲ停ムルノ間ハ既成ノ保安法ロアードロルビニアリック爲メノ法律ニ依リ以テ之ヲ統治ス可シ然リト雖モ政府此等ノ法律ニ依リ

テ西班牙人ヲ國外ニ逐ヒ出シ又ハ國外ニ竄謫スルコトアル可カラス

第三條 第一撰任ノ元老議官ハ百四十名ヲ定限トス既ニ

第一ノ撰任終レハ國王ハ國會ノ會シタル後ニ非サレハ更ニ元老議官ヲ撰ムコトヲ得ス

第四條 租稅上納ノ要欸若干ノ租額ヲ納ムルハ代若クハ歲入所有ノ要欸若干額ノ歲入ヲ受用スルニ非サレハ代若クハ代議士タルコトヲ得サルニ非サレハ代議士タルコトヲ得サルニ非サレハ代議士ノ撰舉法ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 國會ノ代議士ハ其本務内ノ官職ノ代議士院職制内官職ヲ云フ蓋

官シ理事官書記ヲ受ル時ト雖モ亦改メテ之ヲ選舉ス可シ
 第六條 國會ハ每歲現ニ代議士院ヲ編成シタル日ヨリ後
 少クモ四ヶ月間之ヲ集會ス可シ
 第七條 例年ノ歲計豫算表法ニ付キ立法兩院議院ノ議相
 協ハサル時ハ前年ノ歲計豫算表法ヲ準用ス可シ
 第八條 代議士院ノ前許ナケレハ國憲第四十一條ニ豫定
 スル代議士ヲ審判スルヲ得ス
 第九條 國王ハ左件ヲ行フニモ亦國憲第四十六條ニ舉ル
 時機ノ如ク別法ノ承認ヲ受ケサル可カラス
 第一 一般ノ赦恩其刑ヲ赦シテ及ヒ大赦ニ刑罪共ヲ命
 其罪ヲ滅セステ

スル事

第二 王領ノ全部若クハ局部ヲ賣與スル事
 第十條 國王ハ親ラ婚ヲ約シ及ヒ其權内ニ在テ且國憲ニ
 依リ王位ヲ繼ク可キ者ノ婚約ヲ許允スルカ爲メニモ亦
 別法ノ承認ヲ受ケサル可カラス
 第十一條 參議院ヲ置キ法律ニ定メタル時機ニ於テハ其
 レヲシテ國王ノ議ニ參セ令ム可シ
 第十二條 國王大小裁判官ヲ免職シ其老退ヲ命シ及ヒ非
 職トナシテ其紀律ヲ正フスルヲ得ルノ時機及ヒ之ヲ
 行フノ規程等ハ法院ノ整理法ニ於テ既ニ其基礎ヲ
 定メタル制度ノ方法施行

ルヲ規準シ國家ヲ整理經綸フニ依テ之ヲ定ム可シ

第十三條 國王ハ獨リ人口四萬ノ府ニ設クル「アルカド」國

第七十二條 命スルヲ得可シ其他ノ府ニ於テハ法律ニ定

ムル所ニ循ヒ其撰任ニ關與ス可シ

第十四條 國會ニ出タス代議士ノ選舉人ノ姓名表ハ之ヲ

永存ス可シ 每歲改選舉人ノ分限ハ何レノ時機ニ於テモ

公行ノ對論 人民傍聽スル訟庭ニ於テハ以テ之ヲ檢査ス

可シ

第十五條 政府ハ國會ノ開會ヨリ八日以内ニ前年ノ決算
表及ヒ翌年ノ豫算簿ヲ代議士院ニ下附ス可シ

第十六條 國會ハ會計法ヲ議スルノ前ニ國憲第七十九條

ニ關スル法律ヲ議ス可シ

謬誤追正

二十五 第一行

〔効〕ハ〔效〕ノ誤

瑞士國憲

佛國ラフリエール 纂輯

同バトビー 訂正

大書記生 田中耕造 譯述

議官 細川潤次郎 校閱

瑞士聯邦國憲 千八百四十八年九月

瑞士聯邦コンフェデラシオンハ、聯邦ノ盟約ヲ固クシ、國民ノ統一、勢力、及

ヒ聲譽ヲ保存増殖セント欲シ、乃チ全權神明ノ名ニ

由テ左ノ聯邦國憲ヲ採用シタリ

第一篇 總規則

第一條 主權ヲ有スル瑞士二十二列邦ノ人民ハ這回ノ盟約ニ由リ、相協合シテ瑞士聯邦ヲ構成ス、其二十二邦トハ、「ジュリク」、「ベルヌ」、「ルユセルヌ」、「ユリー」、「スクウイス」、「上下アルテルウワルデン」、「グララーリ」、「ジュグ」、「フリブール」、「ソレウヤ」、「ハール」、「スシアフホース」、「アツパンゼル」、「サン、ガール」、「グリソン」、「アルゴビー」、「チユルゴビー」、「テツサン」、「ボード」、「バノー」、「ヌーシアテル」、「ジュチーブ」是ナリ

第二條 聯邦ハ外國ニ對シ本國ノ不羈獨立ヲ固フシ、内國ニ於テ安寧ト順序ヲ保テ聯邦ノ自由及權利ヲ保護シ且聯邦共同ノ福祉ヲ増殖スルヲ要トス、

第三條 列邦ハ聯邦國憲ヲ以テ限畫スル者ヲ除クノ外皆其主權ヲ有ス故ニ諸權利ノ聯邦大政府ニ委任セラレサル者ハ列邦皆自ラ之ヲ行フ、

第四條 凡瑞士國人ハ法律ノ前ニ於テ平等トス瑞士國ニハ臣屬ノ民ナシ、亦地方又ハ門閥若クハ一人一族ニ與フル特准ナシ、

第五條 聯邦ハ列邦ノ爲メニ其疆土ヲ保固ス、且第三條ニ於テ限畫シタル列邦ノ主權、列邦ノ國憲、列邦民ノ同一政府ル者ニ就テ自由及權利國民亦列邦ノ人民ヲ指ス公權ニテ謂フ、就テ謂フニ屬スル政權及ヒ列邦民ヨリ列邦官府ニ依托シタル權利

及ヒ職掌ヲ保固ス、

第六條 是故ニ列邦ハ各其國憲ノ保固ヲ紊亂セサラシム

謂フ聯邦ニ請フ可シ、

左ニ條列スル者ニ適合スレハ列邦國憲ノ保固ヲ許ス、

甲 列邦國憲中何モ聯邦國憲ノ例規ニ背ケル者
ナキ事

乙 列邦國憲ニ於テ共和政治代議政治或ハ人民

政治ノ體裁ニ從フテ政權ヲ行フヲ保固ス

ル事

丙 列邦國憲ハ列邦民ニ由テ許認セラル可キ事

及ヒ國民ノ眞過半數之ヲ請求スレハ該國憲

ヲ查正スルヲ得可キ事

第七條 凡ソ列邦間ニ於テ各自ノ盟約及ヒ國事上ノ諸約

ヲ結フコトハ之ヲ禁ス

然レモ列邦ハ互ニ立法、施政、司法ノ事ニ關スル契約ヲ結

ブノ權ヲ有ス但シ此等ノ契約ハ聯邦政官ニ申報ス可シ

若シ其契約中聯邦ニ背キ又ハ他ノ列邦ノ權利ヲ妨クル

條アル時ハ聯邦政官ニ於テ其執行ヲ停止スルヲ得可シ

否ラザル時ハ結約シタル列邦ヨリ之ヲ執行スルガ爲メ

ニ聯邦ノ助力ヲ請フコトヲ得

第八條 聯邦ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ外國ト同盟條約スルノ特權ヲ有ス就中關口稅及ヒ貿易ノ條約ヲ結フノ特權アリ、

第九條 然レモ列邦ハ經濟上ノ事務隣國ノ交際及ヒ警察ニ關スル事件ノ條約ヲ外國ト取結フノ權ヲ有ス但シ此條約中ニ聯邦又ハ他ノ列邦ノ權利ニ背反スル條款アル可カラズ、

第十條 列邦ト外國政府ト若クハ外國使節トノ間ニ公務ノ往復アル時ハ必ス聯邦行政會ヲ經由ス可シ然レモ列邦ハ前條ニ掲ゲタル事件ニ付キ外國ノ下等官

廳及ヒ吏員ト直チニ相往復スルヲ得

第十一條 カヒチニラシオン、ミリテール 降伏ノ契約ヲ取結フヲ得ス

第十二條 聯邦ノ太政官員第二篇ニ掲グ 官員ヲ指ス聯邦ノ文武官及

ヒ聯邦ノ使節若クハ理事官ハ外國政府ヨリ恩賜金俸祿、
爵稱、贈物若クハ華章ヲ受クルヲ得ス、

若シ既ニ恩賜金爵稱若クハ華章ヲ有スル官員ハ宜ク其任期中之ヲ佩用スルヲ得ム可シ然レモ下等ノ官吏ハ聯邦行政會ノ許允ニ因リ外國政府ヨリ恩賜金ヲ受クルヲ得、

第十三條 聯邦ハ常備兵ヲ置クノ權ヲ有セス、

何レノ列邦若クハ各半邦ト雖モ、聯邦政府ノ許允ヲ經ス
シテ、三百以上常備兵ヲ置クヲ得ス、但シ警備兵ハ此員
外ニ在リトス、
ドミカントン
シヤダルメリ

第十四條 列邦間ニ爭論ノ起ルニ際シ各邦ハ自ラ手ヲ下
シ若クハ軍ヲ備フル等ノ事アル可カラス、必ス聯邦政府
ノ其成法ニ依準シテ下タス所ノ裁決ヲ仰ク可シ、

第十五條 外國ヨリ生スル急難ノ時機ニ際シテハ難ヲ蒙
ムラントスル列邦政府ハ、他ノ列邦ノ應援ヲ請ヒ、且即時
ニ危急ヲ聯邦政官ニ報知ス可シ、但シ此レカ爲メニ聯邦
政官ヨリナス所ノ處分ヲ阻格スルヲ得ス又救ヲ求メ

ラレタル列邦ハ、必ス其請ニ應ス可シ、而シテ此等ノ費用
ハ、皆聯邦ヨリ辨償ス、

第十六條 内國又ハ他ノ列邦ヨリ起リタル騷擾ニ際シテ
ハ、難ヲ蒙ムラントスル列邦政府即時ニ急ヲ聯行政會ニ
報知シ其權限中ニ在ル須要ノ處分ヲ爲サシメ
第九十條
第三十條

第十條 又ハ聯邦議會ヲ召集セシム可シ、又禍難極メテ急ナ
ルニ當テハ、難ニ遇フタル列邦政府即時ニ聯邦行政官ニ
報知シテ直チニ他ノ列邦ノ應援ヲ求ムルヲ得、而シテ
應援ヲ求メラレタル列邦ハ、速ニ其請ニ應ス可シ、又難ニ
遇フタル列邦、應援ヲ請フヲ能ハサル狀アルキハ、其求メ

ナクトモ、當該ノ聯邦政官、直チニ之ニ干預スルヲ得、其
 騷擾全瑞士國ノ安寧ニ係ルキハ、當該ノ聯邦政官必ス之
 ニ干預セサルヲ得ス、
 右干預スル時機ニ際シテハ、聯邦政官、宜ク第五條ニ定ム
 ル例規ノ遵フヤ否ニ注意スヘシ
 右ノ費用ハ、應援ヲ請フタル列邦又ハ干預シタル列邦ヨ
 リ辨償ス可シ、但シ異常ノ形狀アルニ由テ聯邦議會ノ特
 決アル時ハ此限ニアラス、
 第十七條 前二條ニ掲グル時機ニ際シ、列邦ハ兵隊通行ノ
 自由ヲ許ス可シ、但シ該兵隊ハ、直チニ聯邦將官ノ旗下ニ

屬ス

第十八條 凡瑞士國人ハ皆兵役ニ服ス可シ
 第十九條 列邦ノ點徴兵ヲ以テ編制スル聯邦軍隊ハ左ノ
 兵卒ヲ以テ成ル
 甲 瑞士國ノ人口百ニ三ノ比例ヲ以テ列邦ヨリ
 設備スル所ノ選抜兵
 乙 選抜兵ノ數ニ半ハスル豫備兵
 急難ノ時機ニ際シ聯邦ハ、列邦ノ其他ノ兵ヲ以テ第二豫
 備兵ヲ編制スルヲ得
 列邦ヨリ設備ス可キ定員ノ徴兵表ハ二十年毎ニ查正ス

可シ

第二十條 聯邦軍隊ニ必要ナル整齊ト適任ヲ得ルカ爲メニ左ノ基本ヲ定ム、

第一 聯邦ノ法ヲ以テ、軍隊一般ノ兵制ヲ定ム、

第二 聯邦ハ左ノ四件ニ任ス

甲 工兵砲兵騎兵隊ノ教練但シ此兵ヲ出タス所ノ列邦ハ馬ヲ供ス

乙 上文ニ開列スルヨリ他ノ兵隊ノ教師ヲ育成スル事

丙 總兵隊上等教練ノ事之カ爲メニ聯邦ハ、兵學

校ヲ設立シ及ヒ兵隊ノ集合ヲ命ス、

丁 兵事ニ關スル物料ノ一分ヲ供備スル事

聯邦政府ニ集合スル所ノ兵士教練ノ權ハ要スルニ從ッテ、聯邦ノ法律ニ由テ嗣後之ヲ擴張スルヲ得可シ

第三 聯邦ハ歩兵及槍銃ヲ用ユル騎兵ノ教練及ヒ列邦ヨリ聯邦軍隊ニ供備ス可キ兵事ニ關スル物料ノ購求、製作、修補ヲ監察ス、

第四 列邦ノ軍令ハ決シテ一般ノ兵制及ヒ聯邦ニ對スル列邦ノ義務ニ背ケル條款アル可カラズ但シ列

邦ノ軍令ハ聯邦行政會ニ通知シ以テ其檢閲ニ供ス可シ、

第五 凡聯邦ノ役ニ供スル軍隊ハ、聯邦ノ旗ヲ擁ス

第二十一條 聯邦ハ其費用ヲ以テ瑞士全國ニ關スル公ケ

ノ工業若クハ本國ノ大部ニ關スル公ケノ工業ヲ命シ又

ハ補助銀ヲ給シテ之ヲ勸弊スルヲ得

之カ爲メニ、聯邦ハ應當ノ償金ヲ給シテ、私有地ノ沒收ヲ

命スルヲ得、但シ聯邦ノ法律ヲ以テ該件ニ關スル嗣後

ノ條則ヲ規定ス可シ、

聯邦議會ハ、聯邦ノ軍事ヲ妨害スル公ケノ建築ヲ禁制ス

ルヲ得可シ、

第二十二條 聯邦ハ瑞士大學校及ヒ技術學校ヲ設立スル

ノ權ヲ有ス、

第二十三條 關口税ニ關スル事件聯邦ノ處分ニ屬ス、

第二十四條 聯邦ハ償金ヲ給與シテ、水陸通運税トランシ品物過界

税、橋堤通行税、關口税及ヒ其他此種ノ租税列邦、邑會區若

クハ平民ノ收入ニ屬スル者タルニ拘ハラズ全部或ハ一

部ヲ廢止シ國會シエト即チ聯邦議會ニ於テ許シ若クハ認メタル者ノ

全部或ハ一部ヲ廢止スルノ權ヲ有ス然レモ堤税及ヒ品

物過界ニ課スル通運税ハ瑞士全國内ニ於テ皆辨償廢止

ス可シ 堤税及ヒ品物過界ニ課スル
通運税ニ限リ其全部ヲ廢ス

聯邦ハ瑞士國境ニ於テ輸出入税及ヒ品物過界税ヲ收入
スルヲ得可シ

聯邦ハ償金ヲ給與シテ、現時瑞士國境ノ通運收税局ニ定
メタル屋舎ヲ購求シ又ハ借リテ、之ヲ使用スルヲ得可
シ

第二十五條 聯邦通運税ノ收入ハ左ノ原則ニ依準シテ規
定ス可シ

第一 輸入税

甲 本國ノ工業ニ須要ナル物料ハ務メテ其税額

ヲ低フス可シ、

乙 生活ニ須要ナル物料モ亦其税額ヲ低フス可
シ、

丙 奢侈ノ物品ハ、最モ其税額ヲ高フス可シ、

第二 品物過界税、其他ノ總輸出税ハ、務メテ其額ヲ寬
ニス可シ、

第三 通運税法ハ、國境及ヒ互市場ノ貿易ヲ保固スル
ニ適當ナル規則ヲ含有ス可シ、然レモ、之カ爲メニ異
常ノ形狀アルニ際シ、聯邦ニ於テ暫ク特例ノ處分ヲ
爲スヲ妨クルヲナシ、

第二十六條 輸入税及ヒ品物過界税ニ付キ聯邦通運ノ収額ハ、左ニ掲クル所ニ從フテ享用ス可シ、

甲 列邦ハ、千八百三十八年ノ人別調査ニ準シ、邦民一人毎ニ、四「パス」貨幣ノ名、「パス」ハ大抵佛國貨ヲ幣ノ十五「サンチム」ニ當ル領取ス可シ、

乙 列邦ハ、右配賦金ヲ受クルト雖モ、其第二十四條ニ掲クル租税ヲ廢スルニ因テ生シタル損失ヲ全ク償フニ足ラサレハ、千八百四十二年ヨリ同四十六年ニ至ルマテノ五ヶ年收税實利金ニ收關稅リタル費用ヲ引去ノ平均額ニ由リ、廢稅ノ償トシ

丙 通運收税金ノ消費セル殘額ハ、聯邦ノ金庫ニ納テ須要ナル金額ヲ領取ス可シ、
ム可シ、

第二十七條 建築ニ供用ス可キ入費ノ金額若クハ其一分ヲ還償スル爲メニ通運稅若クハ橋堤稅ヲ課シテ償金トスルコトヲ許認シタル時ハ其收金額ヲ以テ建築入費ノ元利金ヲ償フニ足ルニ至レハ、即時ニ之カ收入ヲ廢止ス、
第二十八條 前條ノ規則ハ以テ鐵道ヲ發起スル會社ト取結ヒタル契約ノ品物過界税ニ關スル條款ニ推シ及ホス可カラス、

但シ聯邦ハ己レノ爲メニ鐵道發起ノ契約ニ由リ、品物過
界稅ノ收入ニ係リタル、列邦ト豫定セル稅額ヲ收ム、鐵道
會社ニ許シタル品物過界稅ハ該社之ヲ收入セ
シメ其列邦ニ許シタル者ハ聯邦之ヲ收入ス、

第二十九條 飲食、獸畜、商貨、其他土地工業ヨリ生スル產物
ノ自由賣買及ヒ甲ノ列邦ヨリ乙ノ列邦ニ於ル自由出入
及ヒ通運等ハ聯邦全土皆之ヲ保固ス但シ左ノ件々ヲ除
ク

- 甲 賣買上ニ於テハ鹽稅火藥稅ヲ取立ツルコト
- 乙 貿易工業ノ警察及ヒ道路ノ警察ニ關スル列邦ノ規則

丙 屯貨シカセヲナスヲ防ク規則

丁 傳染病及ヒ獸類傳染病流行ノ時健康警察ニ關スル暫時ノ方法、

乙丙二件ノ規則ハ國民及ヒ他ノ列邦人民ニ對シテ均一ナル可シ此規則ハ聯邦行政會ニ其調査ヲ受ケ之カ承認ヲ得タル後ニ非サレハ執行スルコトヲ得ス

戊 國會ニ因リ准許シ又ハ保存シテ、聯邦ニ於テ未タ廢止セサル租稅第三十四條第三十一條參看

己 第三十二條ノ規制ニ依準セル葡萄酒其他ノ

精酒類ノ消費税ト曰フ 總テ精酒類ニ課スル

第三十條 聯邦ハ凡テ列邦相互ノ間タ又ハ列邦内ニ於テ
人身及ヒ諸物品ノ水陸運漕ニ關スル特准ヲ廢スルニ須
要ナル規則ヲ裁定ス可シ但シ其聯邦ニ關スル者ニ限ル
聯邦ニ得失ナキ瑣細
ノ特准ハ措テ問ハス、

第三十一條 第二十九條戊ノ項ニ掲タル税金ノ収徴ハ聯
邦行政會ニ於テ監察ス可シ又聯邦議會ノ准許アルニ非
サレハ其税額ヲ多クスルヲ得ス又其収税ノ期限ヲ豫
定セル者ハ擅マ、ニ其期ヲ延ハスヲ得可カラス、
列邦ハ何レノ名義ニ由ルモ新タニ通運税又ハ橋堤税ヲ

定ムルヲ得可カラス然レモ聯邦議會ハ第二十一條ニ
依準シ貿易上ニ於テ全國ノ公益トナル可キ建築ヲ勸奨
スルノ爲メ通運税又ハ其他之ニ類スル租税ノ收斂ヲ准
許スルヲ得可シ但シ此建築ハ聯邦議會ノ准許

第三十二條 第二十九條戊ノ項ニ掲ケタル租税ノ外ニ列
邦ハ左ノ制限ニ從フテ葡萄酒及ヒ其他ノ精酒類ニ消費
税ヲ課スルコトヲ得可シ

甲 消費税ヲ收斂スルヲ以テ決シテ品物過界税
ヲ重クス可カラス而シテ消費税ヲ收斂スル
コトハ他ノ税ヲ課スルヲ得サル所ノ貿易上

ニ務メテ薄ク之ヲ課ス可シ
 乙 消費スル爲メニ輸入セル物品ヲ再ヒ輸出スルハ先キニ輸入スル爲メニ收メタル税金ヲ還付シ別ニ税ヲ課スルコトナシ
 丙 瑞士産ノ物品ハ外國品ヨリハ其税ヲ輕フス可シ
 丁 瑞士産ノ葡萄酒及ヒ其他ノ精酒類ニ現時課スル所ノ消費税額ハ其税ヲ收ムル列邦ニ於テ隨意ニ之ヲ高フスルコト得ス又現時消費税ヲ收メサル列邦ニ於テ新タニ右ノ酒類ニ

税ヲ課スルコト得ス

戊 消費税ノ收斂ニ關スル列邦ノ法律及ヒ決定ハ之ヲ執行スルニ先タテ聯邦政官ノ認可ヲ受ケ以テ聯邦政官ヨリ要スルニ從フテ列邦ヲシテ前諸規則ニ注意セ令ム可シ

第三十三條 聯邦ハ左ノ規則依準シテ全瑞士國ノ驛遞事務ヲ管理ス

第一 驛遞事務ハ概シテ之ニ關係スル列邦ノ承認ナケレハ其現時ノ景況ヨリ減縮ス可カラス
 第二 郵便税モ亦第一項ニ同キ原則ニ準シ務テ瑞士

全國ニ於テ其價額ヲシテ平均ナラシム可シ

第三 信書秘密ノ侵ス可ラサルヲ保固ス、

第四 聯邦ハ驛遞ノ權ヲ列邦ヨリ取テ後之ニ其償ヲ

給ス可シ

甲 列邦ハ每歲千八百四十四五六ノ三年間本邦

郵便稅實利金ノ平均額ヲ領受ス

然レモ聯邦ハ郵便稅ヨリ得ル所ノ實利金ヲ

以テ右ノ償金ヲ辨スルニ足ラサル時ハ其得

ル所ノ實利ニ比率シ償金ノ額ヲ減少シテ列

邦ニ給與ス可シ

乙

列邦自ラ驛遞權ヲ受用スルニ由テ直接ニ收

稅セサル時列邦政府驛遞ノ權ヲ邦民若クハ

社ヨリ間接ニ其稅又ハ他ノ列邦ト取結ヒタ

ル驛遞條約ノ故ヲ以テ其得ル所ノ實利却テ

少ク且本邦ニ於テ驛遞ノ權ヲ受用スル時ハ

償金定ムルニ當リ公平ニ其景況ヲ酌量ス可

シ

丙

平民ヲシテ驛遞ノ權ヲ受用セシメタル時ハ

聯邦ヨリ之ニ償フ可シ、

丁

聯邦ハ應當ノ償ヲ給シテ驛遞事務ニ屬シテ

其用ニ適當シ且須要ナル物具ヲ購求スルノ
權義ヲ有ス

戊

聯邦驛遞局ハ償金ヲ給ジテ現時驛遞ニ供用
スル家屋ヲ購求シ又ハ借受スルノ權ヲ有ス
第三十四條 通運稅局及ヒ驛遞局ノ官吏ハ大抵該局ヲ設
置スル列邦ノ人民中ヨリ選任ス可シ、

第三十五條 聯邦ハ其保存ス可キ所ノ道路橋梁ヲ監督ス
又聯邦政官ハ之ニ關係スル列邦郷保若クハ平民此等ノ
道路橋梁ニ應當ノ修補ヲ加ヘサル時第二十六條及ヒ第
三十三條ニ依リ列邦ニ給與ス可キ金額ヲ停ム可シ

第三十六條 聯邦ハ總テ貨幣ニ關スル權利ヲ受用ス嗣後
列邦ニ於テ貨幣ヲ鑄ルヲ止メ貨幣ヲ造ルヲ聯邦獨リ之
ニ任ス、

貨幣ノ原^{ビニモテラール}位及ヒ通貨表ハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可

シ列邦ニ於テ既ニ發行セシ貨幣ノ一分ヲ再鑄シ又ハ改
鑄スル爲メ列邦ノ義務ニ關スル嗣後ノ規則モ亦聯邦ノ
法律ヲ以テ制定ス可シ

第三十七條 聯邦ハ度量衡ニ關スル聯邦會約書ヲ以テ其

基礎トナシ全國ノ度量衡ヲシテ均一ナラシム可シ

第三十八條 火藥ヲ製造シ及ヒ之ヲ販賣スルヲハ全瑞士

國ニ於テ特ニ聯邦ニ屬ス

第三十九條

左ノ金額ヲ以テ聯邦ノ費用ヲ支ユ、

甲 聯邦軍備金ノ利子

乙 瑞士國境ニ於テ收斂スル聯邦通運稅ノ益金

丙 驛遞ノ益金

丁 火藥ノ益金

戊 聯邦議會ノ決定ノ力ニ由ルニ非レハ收斂スルヲ能ハサル列邦ノ租稅

右ノ租稅ハ二十年毎ニ查正ス可キ所ノ課稅表ニ準シテ列邦ヨリ收納ス、

課稅表ヲ查正スルニハ列邦ノ人口貧富及ヒ其産業ヲ察シテ之カ基礎トナス可シ

第四十條 聯邦ノ金庫ニハ聯邦兵ヲ徵集スル軍費ヲ助シル爲メニ平常少クモ列邦ヨリ納ル、所ノ租稅ニ倍スル金額ヲ貯藏ス可シ、

第四十一條 聯邦ハ左ノ規則ニ依準シ瑞士全國内ニ自由ニ住居スルコトノ權ヲ闔國人ニ保固ス、

第一 瑞士人ハ何人ヲ論セス左ニ掲クル公正ノ証書ヲ有スル時ハ何レノ列邦ニ住居スルモ決シテ之ヲ障碍スルコトヲ得ス

甲 生國證書或ハ之ニ均キ證券

アクト、ドリシエ

乙 善行證書 本人ノ品行

セルチファイカドボシムール

丙 公權ヲ享有シ及ヒ法ニ循ヒ名譽ヲ汚サレサルノ證書

右三證書ノ外ニ須要ナル場合ニ於テハ本人ノ資
財產業又ハ工作ノ以テ自ラ存養シ且其眷族ヲ保
育スルニ足ルコアルヲ憑證ス可シ
歸化シタル瑞士人ハ右ノ證書ノ外仍ホ少クモ其
五ヶ年以來列邦政權ヲ享有セシコトヲ載セタル證
書ヲ差出ス可シ
ドロアドシテ

第二 瑞士人其本住ヲ定ムル所ノ列邦ハ其住居スル

カ爲ニ之ニ保證金ヲ命シ又ハ特別ノ費用ヲ命スル

コシカスマン

コトヲ得ス

第三 聯邦ノ法律ハ住居免狀ノ期限免狀ノ効ヲ失ハ

及ヒ住居免狀ヲ得ルカ爲メニ列邦ニ納ム可キ記録

エモルニマン

税ノ最高額ヲ限定ス可シ、

アセレルリ

第四 瑞士人甲ノ列邦ヨリ乙ノ列邦ニ移居スルニ於
テハ邑務ヲ公評スルノ權及ヒ邑ト會トノ財產ニ關
與スルノ權ヲ除クノ外乙邦ノ人民ニ均キ國民權ヲ
享有ス特ニ工業ノ自由ト土地賣買ノ權ハ總テ此等

ニ關シテ移住ノ人民ヲ本邦ノ人民ト同一ニ處分ス
可キ列邦ノ法律并ニ命令ニ準シテ之ヲ保固ス

第五 凡ソ邑ハ他邦ニ屬スル該邑ノ居人ニ對シ其邦
ノ他邑ニ屬セル居人ヨリモ重キ邑稅若クハ費用ヲ
命スルヲ得ス

第六 左件ニ因テ他邦ニ移住セル瑞士人ヲ放逐スル
ヲ得可シ

甲 刑事犯ニ於テ裁判官ノ審斷

乙 民權ヲ失ヒ及ヒ法ニ循テ名譽ヲ汚サレタル
時若クハ其行狀風紀ニ背キタル時自活スル

一能ハサル時貧院等ニ入又ハ警察ノ法律或
ハ規則ニ背犯スルカ爲メニ屢々罰セラレタ
ル時ニ於テ警察官ノ命令

第四十二條 凡ソ列邦ノ人民ハ皆瑞士國民ナリ此名義ニ
由リ各其住居スル列邦ニ於テ聯邦及ヒ列邦ノ事務ニ付
テ其政權ヲ行フヲ得但シ其列邦直管ノ民ト同一ノ約
束ニ從フニ非レバ此權ヲ行フヲ得ス亦移居スルノ後
列邦ノ法律ニ由リ定メタル期限ヲ經ルニ非サレハ列邦
ノ事務ニ與カルヲ能ハス然レモ其期限ハ二ケ年ヲ踰ユ
ルヲ得ス

何人ニテモ一邦以上ノ地ニ於テ政權ヲ行フヲ得ス
第四十三條 何レノ列邦ト雖モ其管下民ノ一人ヨリ國民
權ヲ剝奪スルヲ得ス

外國人ハ全ク其本國ノ籍ヲ離ル、ノ後ニ非レハ列邦ノ
籍ニ入ルヲ得ス

第四十四條 公認シタル耶蘇教法自由ノ行ヒハ全聯邦ニ
於テ保固トス

然レモ列邦並ニ聯邦ハ何時ニテモ國安ヲ保シ及ヒ各宗
派ノ間ニ和平ヲ保存スルニ應當ナル處分ヲナスヲ得
可シ

第四十五條 著刻ノ自由ハ保固トス

然レモ列邦ノ法律ヲ以テ著刻ノ弊害ヲ抑制スルニ須要
ナル處分ヲ定ム但シ此法律ハ列邦行政會ノ認可ヲ受ク
可シ

聯邦ハ聯邦若クハ聯邦政官ニ對スル弊害ヲ抑制スルカ
爲メニ亦刑罰ヲ定ムルヲ得

第四十六條 瑞士國民ハ結社ノ目的若クハ其會社ノ使用
スル方法ニ於テ國禁ヲ犯シ若クハ國難ヲ醸ス可キノ狀
ナケレハ結社スルノ權ヲ有ス但シ列邦ノ法律ハ結社ノ
弊害ヲ抑制スルニ須要ナル處分ヲ定ム

第四十七條 上言ノ權ハ保固トス

第四十八條 凡ソ列邦ハ法律及ヒ裁判ノ方法ニ關スル一切ノ事件ニ於テ他ノ列邦ノ人民ヲ待スルヲ宜ク本邦直管ノ人民ニ均シカル可シ

第四十九條 一ツノ列邦ニ於テナシタル終審ノ民事裁判ハ全瑞士國ニ執行ス可シ

第五十條 レウラマシホペンルソチル 人身上ノ訴ニ付テハ本住居ヲ有シ且資力アル負債者ハ正當裁判官ノ吟味ヲ受ク可シ是故ニ人身上ノ訴ニ因リ本人住居スル邦ノ外ニ於テ該負債者ノ資産ヲ差押へ又ハ之ヲ保管ニ付スルヲ得ス セウストレ

第五十一條 瑞士國內ニ於テ地方商貨稅 甲ノ邦ヨリ乙ノ邦ニ經過スル商

貨ニ課スヲ廢ス聯合一邦ノ民ヨリ他邦ノ民ニ對スル取ルノ稅先キニ失ヒタル權モ亦之ヲ廢ス 取ルノ權

第五十二條 兩國互ニ契約スル場合ノ外外國ニ對スル地方商貨稅モ亦之ヲ廢ス

第五十三條 何人モ正當裁判官ヨリ阻隔セラレ、一ナシ是故ニ臨時裁判所ヲ設立スルヲ得可カラス

第五十四條 國事犯ノ爲メニ死刑ヲ言渡スヲ得可カラ

第五十五條 甲邦ヨリ乙邦ニ犯罪人ヲ解回スルヲハ聯邦

ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス然レモ國事犯及ヒ著刻犯ニ對シテハ其解回ヲ以テ必行ス可キ者トスルヲ得ス

第五十六條 無籍人ヲ何レノ列邦ニ屬セシム可キヤヲ定メ及ヒ嗣後無籍人ノ生スルヲ豫防スルカ爲メニ聯邦ノ法律ヲ制定ス可シ

第五十七條 聯邦ハ瑞士國內外ノ安寧ヲ害スル所ノ外國人ヲ本邦ヨリ放逐スルノ權ヲ有ス

第五十八條 「シエジエイト」派 耶蘇教會 及ヒ之ニ黨スル會社ハ瑞士國內何レノ地方ニ於テモ之ヲ承接スルヲ得ス

第五十九條 聯邦政官ハ國內一般ノ危難トナル可キ傳染

病流行スル時ニ方ツテ健康警察ノ處分ヲ定ムルヲ得

第二篇

聯邦政官

第一

聯邦議會

オトリリヤーエテラル
アツサンブレーフエテラル

第六十條 聯邦ノ最上權ハ、聯邦議會ニ由テ之ヲ行フ該聯邦議會ハ、コンセイユナシオナル、コンセイユコデゼター國議會、列邦議會ノ二局ニ成ル、

甲 國議會

第六十一條 國議會ハ、全國ノ人口二萬ニ付キ一員ノ比例ヲ以テ、公選シタル瑞士國民ノ代議士ヲ以成ル、但シ一萬口以上ノ零數ハ、二萬ト見做シテ算計ス、
每列邦及ヒ分離シタル列邦ニ於テハ、ドミカン每半邦ニ、少クモ代議士各一員ヲ選舉ス、

第六十二條 國議會ノ選舉ハ、直接トス 國民自ラ直チニ該
選舉ハ聯邦選舉會ニ於テ之ヲ行フ、但シ此選舉會ハ各列
邦人民ノ局部ヲ以テ構成スルヲ得ス

第六十三條 年齢滿二十歳ニシテ、且其本住居トスル所ノ
列邦ノ法律ニ因リ、國民權ヲ剝奪セラレサル瑞士國人ハ
皆投票ノ權ヲ有ス、

第六十四條 投票ノ權ヲ有スル瑞士國俗籍ノ者 僧徒ヲハ、
皆國議會ノ員ニ選マル、ヲ得可シ、外國ヨリ歸化シテ
瑞士國人トナリタル者ハ、其國民權ヲ有スル時ヨリ、五年
ノ後ニ非レハ議員ニ選マル、ヲ得ス、

第六十五條 國議會ハ、三年毎ニ選舉シテ其全員ヲ更迭ス、
第六十六條 列邦議會、ノ代議士聯邦行政會ノ員及ヒ行政
會ヨリ命セラレタル官吏ハ國議會ノ議員ニ兼任スルヲ
得ス

第六十七條 國議會ハ、通常會期若クハ臨時會期ノ間其議
員中ヨリ議長、副議長各々一名ヲ選フ、
通常會期ノ間議長ニ任セラレタル議員ハ、次回ノ通常會
期ニ於テ、議長若クハ副議長ノ職ヲ再勤スルヲ得ス
同一議員ニシテ二回ノ通常會期ノ間引續キテ副議長ニ
任スルヲ得ス、

論議兩立スル時ハ、議長ノ説ヲ以テ其取捨ヲ決ス、役員選舉 第七十四條ニ於テハ議長モ亦他ノ議員ト均シク投票ス可シ

第六十八條 國議會ノ議員ハ、聯邦金庫ヨリ償給ヲ受ク、

乙 列邦議會

第六十九條 列邦議會ハ、列邦ノ代議士四十四員ヲ以テ成ル、每邦代議士二員ヲ選命ス、分離シタル列邦ハ、各半邦ニ於テ代議士一員ヲ選舉ス、

第七十條 國議會ノ議員及ヒ聯邦行政會員ハ、列邦議會ノ代議士ニ兼任スルヲ得ス、

第七十一條 列邦議會ハ通常會期若クハ臨時會期ノ間其

員中ヨリ議長副議長各々一人ヲ選フ、

議長若クハ副議長ハ前回ノ通常會期ノ間議長ニ選マレ

タル列邦ノ代議士中ヨリ選フヲ得ス、

同一列邦ノ代議士ハ、二回ノ通常會期ノ間引續キテ副議

長ノ職ニ任スルヲ得ス、

論議兩立スル時ハ議長ノ説ヲ以テ其取捨ヲ決ス、官員選

舉ニ於テハ議長モ亦他ノ議員ト均シク投票ス

第七十二條 列邦議會ノ代議士ハ、列邦ヨリ償給ヲ受ク、

丙 聯邦議會ノ職掌

第七十三條 國議會及列邦議會ハ、總テ此國憲ニ因リ聯邦ノ所轄ニ屬シテ、他ノ聯邦政官ニ屬セサル所ノ一切ノ事件ヲ論議ス、

第七十四條 國議會及ヒ列邦議會ニ委任セラレタル事務ハ大約左ノ如シ

第一 聯邦ノ憲法ヲ執行スル爲メノ法律命令若クハ決定就中選舉區ノ設立、選舉ノ方法、聯邦政官ノ構成并ニ其勤務ノ方法及ヒ陪審ノ設置

第二 聯邦政官及ヒ聯邦書記局官員ノ俸給并ニ償給、常設スル聯邦官職ノ新設及ヒ其俸給ヲ定ムル

第三 聯邦行政會、聯邦裁判官、書記官、大將、參謀長、聯邦使節ノ選舉、

第四 外國及ヒ外國政府ヲ承認スル

第五 外國トノ同盟并ニ條約、及ヒ列邦相互ノ條約若クハ列邦ト外國トノ間ニ取結ヒタル條約ノ認可然レモ列邦相互ノ條約ハ、聯邦行政會若クハ他ノ列邦ヨリ要求スル場合ノ外聯邦議會ニ具上セス、

第六 外國ニ對シ、安寧ヲ保チ、瑞士國ノ獨立并ニ中立ヲ守ル可キ方法及ヒ宣戰、講和、

第七 瑞士列邦ノ憲法、及ヒ邦土ノ保護ト之レヲ保護ス

ル爲メニ、列邦ノ事務ニ關與シ、瑞士内國ノ平和ヲ保ツ
ノ方法及ヒ大赦并ニ特赦ノ執行

第八 聯邦憲法ヲ尊重セシメ、列邦憲法ノ保護ヲ固フス
ル爲メノ方法及ヒ聯邦ノ職分ヲ盡スヲ得ルヲ方
法又ハ聯邦ニ由リ保固スル權利ヲ保守スルヲ目的ト
スル方法

第九 聯邦ノ兵制兵隊ノ教練及ヒ列邦ノ租税ニ關スル
法則兵隊ノ規則

第十 聯邦賦役表ノ規定、聯邦軍備金ノ管理及ヒ消費ニ
關スル法則、

列邦ヨリ納ル、銀税ノ収歛、負債、歲計豫算表、及ヒ決算
表、

第十一 通運税、驛遞、貨幣、度量、衡、火藥ノ製造、鬻賣、礦坑、軍
備糧食兵ニ關スル法律、命令若クハ決定、

第十二 公舍貧病院ノ新設聯邦ノ建築及ヒ之ニ關スル
土地沒収ノ方法

第十三 住居自由ノ權 聯邦内何ノ地方ニ於テモ、其無
籍人、外國人ノ警察及ヒ健康方法ニ關スル法則、

第十四 聯邦行政及ヒ聯邦司法ノ監督

第十五 聯邦行政會ニ於テ行フタル決定若クハ方法ニ

對セル、列邦及ヒ國民ノ要求

第十六 公權ニ關セル列邦相互ノ爭論、

第十七 權限抵觸ノ爭論就中左ノ二件ニ關スル者

甲 某件ハ聯邦ノ所管ニ屬スルヤ將タ其列邦ノ

主權ニ屬スルヤ難問、

乙 某件ハ聯邦行政會ノ委任ナルヤ、將タ其聯邦

裁判所ノ委任ナルヤ難問、

第十八 聯邦憲法ノ查正

第七十五條 國議會及ヒ列邦議會ハ每歲一回通常會期ニ

於テ條例ニ定メタル日ヲ以テ集會ス

國議會ノ議員四分ノ一若クハ五邦ノ請求ニ由リ、聯邦行政會ヨリ臨時ニ右ノ兩議會ヲ召集ス、

第七十六條 議會ハ、出席スル代議士ノ數、其全員ノ眞ノ過

半數ニ至ルニ非サレハ決ヲ舉ルヲ得ス、

第七十七條 國議會及ヒ列邦議會ニ於テ決ヲ舉ルハ公評

人ノ眞ノ過半數ヲ以テス

第七十八條 聯邦ノ法律命令若クハ決定ハ兩議會ノ承認

ヲ得ルニ非スシテ決行スルヲ得ス

第七十九條 兩議會ノ議員ハ訓諭ヲ受ケスシテ公評ス

第八十條 兩議會ハ各別ニ決ヲ舉ク然レモ第七十四條第

三項ニ開載スル選舉及ヒ特赦ノ權ヲ行ヒ又ハ權限抵觸ノ爭ヲ判決スル時ハ兩議會一所ニ會合シ國議會議長ノ指揮ヲ奉シテ以テ論議シ兩議會公評人ノ過半数ニ由テ決テ舉シ

第八十一條 起草ノ權ハ各議會及ヒ兩議會ノ各議員ニ屬ス

列邦ハ信書往復ニ由テ起草ノ權ヲ行フヲ得 列邦各々ヲ聯邦議會ニ郵送スルヲ得

第八十二條 各議會ノ會議ハ常ニ公行トス、

第二 聯邦行政會

コンフェデラール

第八十三條 聯邦ニ於テ行政ノ最上權ハ七員ヲ以テ構成スル所ノ聯邦行政會之ヲ執行ス、

第八十四條 聯邦行政會員ハ國議會ニ選舉セラレ可キ全瑞士國民中ヨリ、兩議會之ヲ選ミテ三歲間其職ニ任ス然レヒ一列邦中ヨリ行政會ノ僚員一名以上ヲ選舉スルヲ得可カラズ、

聯邦行政會ハ國議會更選ノ後毎ニ亦全ク之ヲ更迭ス三歲ニ滿タスシテ聯邦行政會員缺クル時ハ聯邦議會ノ第一次會期ノ後始メテ開キタル會期ニ於テ之ヲ填補シ以テ其任期滿ツルノ日ニ至ル、

第八十五條 聯邦行政會員ハ其任期間聯邦ニ於テスルモ若クハ列邦ニ於テスルモ決シテ他ノ官職ニ任スルヲ得ス亦他ノ職務ヲナシ或ハ業ヲ營ムヲ得ス

第八十六條 聯邦議長ヲ以テ聯邦行政會ノ首長ニ任シ仍ホ別ニ副議長一員ヲ置ク

聯邦議長及ヒ聯邦行政會ノ副議長ハ聯邦議會該行政會員中ヨリ之ヲ選舉シ一歲間其職ニ任ス、

聯邦議長ハ其職ヲ去リタル翌年ニ當リ再ヒ議長若クハ副議長ノ選ニ中ルヲ得ス、

同一人ニシテ二歲ノ間引續キ副議長ノ職ニ任スルヲ得ス、

得ス、

第八十七條 聯邦議長及ヒ其他ノ聯邦行政會員ハ聯邦ノ金庫ヨリ歳俸ヲ受ク

第八十八條 聯邦行政會ハ少クモ其四員以上出席スルニ非サレハ議決スルヲ得ス、

第八十九條 聯邦行政會員ハ聯邦議會ノ兩局ニ於テ商議

ノ權及ヒ討議ス可キ事件ニ關シ、起議ノ權ヲ有ス

第九十條 此憲法ニ限定スル所ノ聯邦行政會ノ職掌及ヒ義務ハ大約左ノ如シ、

第一 聯邦行政會ハ聯邦ノ法律、命令及ヒ決定ニ準シ

テ聯邦ノ政務ヲ指揮ス、

第二 聯邦行政會ハ聯邦ノ憲法、法律命令並ニ決定及
ヒ聯邦會約書ノ規則ノ執行ヲ看守シ且此等ノ法令
ヲ遵守セヨムル爲メニ須要トスル方法ハ或ハ其長
官ヨリ之ヲ設ケ或ハ訴告ヲ聽テ之ヲ設ク、

第三 聯邦行政會ハ列邦憲法ノ保固ヲ看守ス、

第四 聯邦行政會ハ法律命令若クハ決定ノ議案ヲ聯
邦議會ニ出タシ及ヒ兩議會若クハ列邦ヨリ之ヲ廻
送スル起議ニ對シテ其意見ヲ述フ

第五 聯邦行政會ハ聯邦ノ法律命令并ニ決定聯邦裁

判所ノ審判及ヒ列邦相互ノ^{トランザクション}爭論^{トランザクション}勸解若クハ其^{サニダシテ}私裁
判者ノ審斷ヲ決行ス

第六 聯邦行政會ハ憲法ニ由リ聯邦議會若クハ聯邦
裁判所又ハ法律ニ由リ他ノ下等政官ニ委任セサル
官吏ヲ命ス、

聯邦行政會ハ瑞士國內外ニ於テ特別ナル委員ヲ命
ス、

第七 聯邦行政會ハ列邦相互ヒノ條約又ハ其外國ト
取結ヒタル條約ヲ檢査シ其許ス可キ者ハ則チ之ヲ
認可ス、^{第七十四條}第五項參看

第八 聯邦行政會ハ、外國ニ於テ、聯邦ノ利益就中各國
間關係ノ果シテ行ハル、ヤ否ヲ看守ス且總テ外國
交際事務ニ擔任ス

第九 聯邦行政會ハ外國ニ對シ、瑞士國ノ安寧及ヒ其
獨立ト中立ヲ保守スルヲ看守ス、

第十 行政會ハ、内國ノ安寧及ヒ平和ヲ保守スルヲ
看守ス、

第十一 急迫ノ時機ニ臨ミ聯邦議會ノ未タ召集セサ
ルニ遇フテハ聯邦行政會ハ必要ナル軍兵ヲ徵募シ
テ之ヲ部署スルヲ得然レモ徵募シタル兵員二千

ニ餘ヘ、又ハ其屯駐スルヲ三週日以上ニ及ヘハ即時
ニ聯邦議會ヲ召集ス可シ

第十二 聯邦行政會ハ聯邦ノ兵及ヒ聯邦ニ屬スル一
切ノ行政諸局ニ關スル者ニ擔任ス、

第十三 聯邦行政會ハ其認可ス可キ列邦ノ法律及ヒ
列邦令狀ヲ調査シテ、軍務通運稅道路橋梁等聯邦ニ
於テ監督ス可キ列邦行政ノ諸局ヲ監察ス

第十四 聯邦行政會ハ聯邦ノ會計ヲ管理シ、歲出納豫
算表ヲ起議シ及ヒ歲出納ノ決算表ヲ編成ス

第十五 聯邦行政會ハ凡テ聯邦行政官吏ノ管理ヲ監

察ス

第十六 聯邦行政會ハ、每通常會期ニ於テ聯邦議會ニ其自ラ管理スル所ヲ開具シ且之ニ聯邦内外ノ景況ヲ掲ケル報告書ヲ出シ及ヒ國ノ繁榮ヲ増加スルニ有益ナリト思量スル方法ヲ勸告ス、

聯邦行政會ハ聯邦議會若クハ其會中ノ一局ノ求メアル時特別ノ報告書ヲ作ル

第九十一條 聯邦行政會ノ事務ハ局ヲ分テ該會員ニ分任ス此分任ハ專ラ事務ノ調査處分ヲ便宜ニスルヲ要トス但シ決定書ハ的確ナル者トナシテ聯邦行政會ヨリ之ヲ

發ス

第九十二條 聯邦行政會及ヒ其各局ハ、特別ナル事件ノ爲メニ鑑定人ヲ召スヲ得、
モリスベル
エクスベル

第三 聯邦書記局
シアンセルリ、フエデラ

第九十三條 聯邦書記局ハ、聯邦議會及ヒ聯邦行政會ノ書記官、之ニ任ス其長ヲ聯邦掌印官ト名シ
シアンズリエードラコンフエラシオン
掌印官ハ任期三年ニシテ聯邦行政會ト同時ニ於テ聯邦議會之ヲ選舉ス

聯邦書記局ハ聯邦行政會ヨリ特別ノ監察ヲ受ク
聯邦ノ法律ヲ以テ、嗣後書記局ノ構制ニ關スル諸件ヲ定

ム可シ

第四 聯邦裁判所

トリビニナルンエデラル

第九十四條 聯邦裁判所一ヶ所ヲ置テ聯邦ノ案件ヲ判理

ス

刑事ヲ治ムルニハ更ニ陪審官ヲ設ク

第九十五條 聯邦裁判所ハ官員十一名及ヒ法律ニ由リ員

數ヲ定ムル所ノ補官ヲ以テ成ル

レヒツレアン

第九十六條 聯邦裁判所ノ官員及ヒ補官ハ聯邦議會ヨリ

選舉シテ三歲間其職ニ任ス又國議會更選ノ後毎ニ聯邦

裁判所ノ全員ヲ更迭ス

瑞

三歲ニ滿タスシテ裁判所ノ官員缺ク時ハ聯邦議會ノ
第一次會期ニ於テ之ヲ填補シ以テ其任期ノ滿ツルニ至
ル

第九十七條 國議會ニ選マル可キ瑞士國人ハ皆聯邦裁判

官ニ擧ケラル、フヲ得聯邦行政會及ヒ該行政會ノ命シ

タル官吏ハ裁判所ノ官職ニ兼任スルヲ得ス

第九十八條 裁判所ノ長及ヒ副長ハ該裁判所ノ僚員中ヨ

リ聯邦議會之ヲ命シテ各々一年間其職ニ任ス

第九十九條 裁判所ノ官員ハ聯邦ノ金庫ヨリ償給ヲ受ク

第一百條 裁判所ハ書記局ヲ設置シテ其官員ヲ命ス

第一百一條 聯邦裁判所ハ民事裁判所トシテ左ノ件ヲ審理

ス

第一 公權ニ關スル者ニ非スシテ列邦相互ノ間若シ
ハ聯邦ト列邦トノ間ニ起リタル争訟

第二 聯邦政府ト會又ハ平民ノ間ニ起リタル争訟但
シ會又ハ平民ノ原告人トナリ聯邦ノ法律ニ定ムル
所ノ重大ナル事件ニ限ル

第三 無籍人ニ關スル争訟

右第一項ニ記載スル場合ニ於テハ聯邦行政會ヲ經由
シテ裁判所ニ訴出ス若シ聯邦行政會ニ於テ其事ノ聯

邦裁判所ノ所轄ニ屬スルヤ否ヤヲ確知セント決スル
時ハ聯邦議會ニ於テ裁判權限ノ抵觸ヲ裁定ス

第一百二條

聯邦裁判所ハ原被雙方相協フテ之ニ審判ヲ委

托シ且争論スル所ノ物價聯邦ノ法律ニ定ムル金額ヲ大

ニ踰ユル時ハ前條ニ記載スル所ヨリ外ノ訴訟ヲモ受理

セサル可カラス此場合ニ當リ訴訟入費ハ全ク原被雙方

ヨリ辨償セシム

第一百三條

聯邦裁判所ニ於テ刑事裁判所トシテ施行スル

所ノ者ハ嗣後制定スル所ノ勅告、重罪裁判所及ヒ破毀裁

判ニ關スル聯邦ノ法律ニ由テ規定ス可シ

第四百四條 重罪裁判所ハ事實ヲ斷決スル陪審官ト共ニ左ノ件々ヲ審理ス

甲 本人ヲ命シタル聯邦政官ヨリ刑事裁判所ニ訴ヘラレタル官吏ニ關スル罪

乙 聯邦ニ對シ謀叛スルノ罪聯邦政官ニ對シ背犯又ハ暴行ノ罪

丙 萬國公法ニ對スル重罪并ニ輕罪

丁 聯邦ヲシテ兵ヲ以テ關與セシムルニ至リタル騷亂ヲ起シ若クハ其騷亂ニ由テ犯シタル國事犯

聯邦議會ハ右ニ記載スル重罪及ヒ輕罪ニ對シ何時ニテモ大赦又ハ特赦ヲ與フルコトヲ得

第四百五條 此外聯邦裁判所ハ此國憲ニ由リ保固シタル權利ノ侵害ニ付テ之ヲ審理ス但シ聯邦議會ヨリ該裁判所ニ該案件ヲ移セシ時ニ限ル

第四百六條 第一百一第四百五條ニ記載スル場合ノ外又聯邦ノ法律ニ由リ他ノ案件ヲ聯邦裁判所ノ權任ニ置クコトヲ得

第四百七條 聯邦ノ法律ヲ以テ左ノ條件ヲ規定ス可シ
甲 聯邦檢事職ノ構制

乙 聯邦裁判所ノ權任ニ置ク可キ輕罪及ヒ準用ス可キ刑法

丙 公行及言論ス可キ聯邦訴訟手續ノ方式

丁 訴訟入費ニ關スル事件

第五 雜則

第百八條 聯邦政官ノ設置ニ關スル諸件ハ聯邦ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

第百九條 瑞士國ニ使用スル日耳曼佛蘭西以太利ノ三語ハ聯邦ノ國語トス

第百十條 聯邦ノ官員ハ其管理セル事ノ責ニ任ス但シ聯

邦ノ法律ヲ以テ明確ニ此官吏ノ責任ニ關スル件々ヲ規定ス可シ

第三篇 聯邦國憲ノ查正

第百十一條 聯邦國憲ハ何時ニテモ查正スルコトヲ得

第百十二條 國憲ノ查正ハ聯邦ノ法律ニ因リ定メタル方式ニ從フ、

第百十三條 聯邦議會ノ一局ハ聯邦國憲ノ查正ヲ主張スルニ他ノ一局之ニ同意セサル時若クハ投票ノ權ヲ有スル瑞士國民五萬人以上國憲ノ查正ヲ請求シタル時ハ瑞士全國國民ニ投票セシメテ以テ查正ノ可否ヲ決ス可シ

右ノ場合ニ於テ國民投票シテ查正ヲ可ト決スル者多數ナル時ハ國議會及ヒ列邦議會ヲ更選シテ國憲查正ニ從事セシム可シ

第百十四條 查正シタル聯邦國憲ハ投票ニ參スル瑞士國民ノ多數及ヒ列邦ノ多數之ヲ許認スルニ及ヒテ乃チ執行ス

瑞士聯邦國憲 畢

謬誤追正

- 四 第三行 [聯邦]ノ上[チ]チ脱ス
- 八 第二行 [以上]ノ下[ノ]チ脱ス
- 九 第七行 [官]ハ[會]ノ誤
- 十三 第一行 [命]ノ下[令]チ脱ス
- 十五 第四行 [事件]ノ下[ハ]チ脱ス
- 十八 第六行 [租稅]ノ下[ノ]チ脱ス
- 二十二 第四行 [右]ノ下[ノ]チ脱ス
- 二十二 第四行 [關]ノ下[係]チ脱ス
- 五十二 第五行 [ヤ]ノ下[ノ]チ脱ス

六十五 第五行

〔會及〕ノ間〔員〕ヲ脱ス

葡萄牙國憲

大書記生 田中耕造 譯

議官 細川潤次郎 校正

葡萄牙及亞利牙爾威王國國憲 葡萄牙及亞利牙爾威王兼
 世千八百五十六年四月二十九日之憲法 宣布一千八百五
 十二年七月二十六日增補律例之修正原註云云
 補律例各條ハ其相干例ノ由リ各條ノ分チ
 掲ゲタリ而シテ増補例ノ由リ建國法ノ分チ
 全廢スル者ハ直チニ建國法ノ本文ニ増補律例ノ分チ
 成文ヲ代填ス若シ増補律例ノ本文ニ増補律例ノ分チ
 止マル者ハ建國法條ノ原文ヲ存置シテ増補律例ノ分チ
 條款ヲ註記セリ

第一篇 葡萄牙王國、部屬地、政府、國朝及ヒ法教

第一條 葡萄牙王國ハ葡萄牙國人ノ政事社會ニシテ乃チ

アツシクオンボリテ

該國人ヲ以テ自由不羈ノ國ヲ構成ス

第二條 王國ハ即チ葡萄牙及亞利牙爾威ニシテ之レニ屬スル地左ノ如シ

第一 歐羅巴洲ニ在ル者ハ「マンオ」「トラヴス、モン」「ベ
イラ」「エストラマシユル」「アレーム」テシオ州ヨリ構成
スル葡萄牙王國、亞利牙爾威王國 葡ノ極南地千二百
五十年葡王「アルホ
ンス」第三世及「ビ」「マ」「デ」「ール」「ポルト、サント」「アソル」等ノ
之ヲ領取ス 及「ビ」「マ」「デ」「ール」「ポルト、サント」「アソル」等ノ
近島

第二 西亞非利加洲ニ在ル者ハ「ビ」「ツ」「ソー」「カシユ」「ト」「ミ
ナ」「海」「岸」「ノ」「サン、シアン、パチスト、ド、アジユ」「ア」「堡」「ア」「ン

エテ「ベン」「グ」「ユ」「ラ」其屬地「カバンダ」「モランボ」「カパウエ
ル」「島」「サン、ト」「マ」「島」「プ」「ラ」「ン」「ス」「島、右三島ノ屬地、東海岸
ノ「モザン」「ビク」「リオド、サンナ」「ソフアラ」「アンハンバヌ」
「クリマヌ」「カアデルガド」羣島

第三 亞細亞洲ニ在ル者ハ「サルセド」「バルデー」「ゴア」「マ
マン」「シウ」「マ」「カハ」即チ「澳門」ノ埔頭及ヒ「ソロル」「島」「チモル」「島」ノ
埔頭

第三條 縱令ヒ前條ニ掲在セザル地ト雖モ三洲 歐羅巴、亞
利加洲中ニ於テ更ニ其幾部ヲ享有スル權理ハ曾テ之ヲ
棄失セズ

第四條 政府ハ君主世傳代議政トス 君主世々王位ヲ襲ニギ
代リテ法律
ヲ定立ス

第五條 「フラカンス」家ヲ以テ現時統御ノ王朝トスルヲ故
トノ如シ乃チ「シラン」第六世ノ正當ナル後嗣ニシテ今ノ
女王ノ父親ナル巴西皇帝陛下「ペドロ」第一世ノ職ヲ辭セ
ルニ由テ其公主「マリア、ダ、グロリア」陛下ヲ以テ之ガ女王
トス

第六條 羅馬正教ヲ以テ國教トナスヲ故トノ如シ其他ノ
法教ハ外國人此レガ爲メニ設ケタル堂館ニ於テ其祭儀
ヲ行フテ敢テ寺院ノ外形ヲ示メサバル時ハ其意ニ任セ

テ問フコト無シ

第二篇 葡萄牙國人

第七條 左ニ擧クル者ヲ葡萄牙國人トナス

第一 葡萄牙國若クハ其屬地ニ生レテ現今巴西國ノ
籍ニ入テサル者但シ父其本國ノ役務ノタメニ葡葡
牙國ニ停居スルニ非レハ外國人ヲ父トスル者ト雖
モ亦葡萄牙國人トナス

第二 葡萄牙王國ニ來リ其本住ヲ定ムル時ハ縱ヒ外
國ニ生産セシ者ナルモ葡萄牙國人ヲ父トスル子女
及ヒ葡萄牙國人ヲ母トスル庶子

第三 葡萄牙王國ニ其本住ヲ定メスト雖モ該王國ノ
役務ノタメニ外國ニ停居スル葡萄牙國人ヲ父トス
ル子女

第四 本人奉スル所ノ宗教ノ如何ヲ論セス歸化シタ
ル外國人但シ如何ナル約款ニ於テ歸化免狀ヲ得ヘ
キヤハ法律之ヲ定ムヘシ

第八條 左ニ舉クル者ハ葡萄牙國民ノ權理ヲ失フ

- 第一 外國ニ歸化スル者
- 第二 國王ノ許允ヲ經スシテ外國政府ヨリ官爵若クハ恩賜金ヲ受クル者

第三 法術ノ審斷ニ因リ追放セララル、者

第九條 政權ノ受用ハ左件ニ因テ停闔ス

- 第一 外形ノ無能アノカバシテ、ヒシク癡疾アノカバシテ、モラル類モラル狂癡モラル白癡モラル類
- 第二 禁獄若シハ配流アノカバシテ、モラル海外所屬ノ地ニ配置モラルノ審判但シ期滿レハ政權剝奪ノ禁ヲ解ク

第三篇 大權及ヒ國民ノ代理官フインガアル、ボリタク
レハサシメシオン

第十條 大權ノ分割調和ハ國民ノ權理ヲ保持スル原理ニシテ建國法ヲ以テ國民ニ保證スル所ノ者ヲ實踐スヘキ
眞確ノ方法ナリ

第十一條 建國法ニ依リ認メタル大權ハ左ノ四者ニ分ツ

第一 立法權

第二節 制權 立、法、行、法、司、法、三、大、權、ノ、不、羈、均、勢、調、和、ヲ、保、存、ス、ル、ノ、權、 第五篇ヲ看ルヘシ

第三 行法權

第四 司法權

第十二條 葡萄牙國ノ代理官ハ國王ト國會トナリ

第四篇 立法權

第一章 立法權ノ分割及ヒ其職掌

第十三條 立法權ハ國王ノ制可サ、ン、ク、シ、ン、國會ニ於テ起議シタルヲ待ツノ外總テ國會ニ屬ス

第十四條 國會ハ貴族院及ヒ代議士院ヲ以テ構成ス

シ、ア、ン、ブ、ル、テ、ベ、ル、

シ、ア、ン、ブ、ル、テ、デ、ビ、ユ、テ、リ、

第十五條 國會ノ職掌ハ左ニ掲ク

第一 國王ヲ、リ、ン、ス、ロ、イ、ア、ル、攝政一員ニ若クハ攝政官一員ニ宣

誓ヲ受クル事

第二 攝政若クハ攝政議會ノ僚員ヲ撰ミ及ヒ其權域

ヲ定ムル事一、千、八、百、五、十、二、年、七、月、五、日、ノ、增、補、律、例、第、十、

三條ニ掲クル時機、ニ、於、テ、攝政ヲ認シ建國法第九十

七ノ場合ニ於テ此、條、ノ、規、則、ヲ、變、易、シ、又ハ第六年四

第九十二條ノ施行ヲ回避スルヲ得ス第、一、〇、建

國法第十五條第二項ヲ改竄スルヲ得ス第、一、〇、建

第三 儲君降誕ノ後始メテ開キタル會合ニ於テ之ヲ世嗣ト認ムル事

- 第四 遺命ニ因テ指定シタル者ナキ時未成年ナル國王ノ太保ヲ任命スル事
- 第五 國王殂スル時若クハ王位ヲ空フスル時既往ノ施政ヲ查檢シ及ヒ施政上ノ弊害ヲ改正スル事
- 第六 法律ヲ定立説明停閣廢棄スル事
- 第七 建國法ノ保守及ヒ本國ノ公益ヲ看守スル事
- 第八 毎歲國費ヲ定メ及ヒ直稅ヲ配當スル事
- 第九 王國若クハ港内ニ外國陸海軍ノ進入ヲ允否スル事
- 第十 毎歲政府ノ起議ニ因リ平時若クハ臨時ノ陸海

軍ヲ限定スル事

- 第十一 負債ヲ約スルヲ政府ニ許認スル事
- 第十二 國債ヲ還償スルニ適宜ナル方法ヲ定ムル事
- 第十三 政府ノ財産ノ管理ヲ規定シ及ヒ該財産ノ賣付ヲ判決スル事
- 第十四 政府官僚及ヒ其奉給ヲ設定シ若クハ廢止スル事
- 第十五 貨幣ノ斤量價格銘誌アンシクリフシオン摸畫名稱及ヒ度量衡ノ原位メ尺度リ斤量トノ規準トナル者ハ例ヘ佛國ニ於テメノ位ト定ムル事ノ類是ナリヲ定ムル事

第十六條 貴族院ノ議員ハ「端正ナル王國貴臣」ノ名稱ヲ有シ代議士院ノ議員ハ「貴重ナル葡萄牙王國代議士員」ノ名稱ヲ有ス

第十七條 立法官ノ任期ハ四年トス而シテ每歲ノ各會期ハ三月ト定ム

第十八條 國王親ラ宣スル議院ノ開會ハ每歲一月二日ニ於テスベシ

第十九條 國王親ラ宣スル議院ノ開會及ヒ閉會ハ兩院貴族院代議士院集合シタル國會ニ對シ其式ヲ行フヘシ是時貴族院ノ議員ハ右ニ列シ代議士院ノ議員ハ左ニ列スヘシ

第二十條 前條ノ儀禮議院開閉ノ儀並ニ國王ノ報照通告文案ヲリ其意見ヲ議院ノ爲メニハ議院內務條例ニ掲クル所ノ規例ヲ踐行スベシ

第二十一條 貴族院議長及副議長ノ任命ハ國王ニ屬ス代議士院ハ議長及副議長ハ同院ヨリ奏呈シタル推薦人五員ノ姓名表ニ依リ國王亦之ヲ撰定スベシ

兩院書記官ノ撰命議員權任ノ監査及ヒ宣誓並ニ議堂ノ取締ハ各院其特別ナル條例ニ依據シテ施行スヘシ

第二十二條 兩院集合スル時ハ議長職ヲ貴族院ノ議長ニ委スヘシ但シ兩院ノ議員ハ國會ノ開會ニ準シテ其坐位

ヲ占ムベシ 貴族院ノ議員ハ右ニ列シ代

第二十三條 上下各院代貴族院トノ會議ハ國益ノタメ秘密

會議ヲ開クニ要スヘキ場合ヲ除クノ外公行トス

第二十四條 議決ヲ舉ルハ出頭シタル議員ノ過半數ヲ以

テスヘシ

第二十五條 上下各院ノ議員ハ其職務ヲ以テ發シタル論

說ノ爲ニ之ヲ審糾スルコトヲ得ス

第二十六條 凡ソ貴族院若クハ代議士院ノ議員ハ其現行

重罪犯ノ場合ヲ除クノ外何レノ官廳ト雖モ本人附屬ス

ル議院ノ許認ナクシテ職事服行ノ際ニ勾捕スルコトヲ得

ス

第二十七條 凡ソ貴族院若クハ代議士院ノ議員ヲ刑事法

院ニ提起スル時裁判官ハ全ク其審糾ヲ閉止シ本人附屬

スル議院ニ之ヲ報知スヘシ是時議院ハ提起セラレタル

議員ノ審糾ニ着手スヘキヤト該議員ヲ停職スヘキヤ或

ハ停職ヲ要セサルヤト決定スヘシ

第二十八條 兩院ノ議員ハ共ニ執政官若クハ參議官ニ拜

スルコトヲ得ヘシ是時貴族院ノ議員ハ該院ノ會議ニ出頭

スルコト故トノ如シ 職ヲ失ハス 然レモ代議士院ノ議員

ハ其職去リ改メテ選舉ヲ受クヘシ但シ其議員ニ重撰セ

ラシタル時ハ兩職執政官若クハ參議官ノ職ト兼任ス
增補律例第二條ニ云ク若クハ代議士ハ其撰舉ヲ受ルノ後
勳爵ノ褒賞ヲ受ケ若クハ政府ニ附屬シテ賜俸アル
官職或ハ理事職ニ拜スルニ由テ代議士ノ官ヲ失フ該代
議士ヲ重選スルニハ増補律例第九條ニ定ムル所ニ循ヒ
政府官僚ノ職ニ服スル時代議士員ニ選舉セラルヘキ權
ヲ規定スヘキ條則ニ依準ス○建國法第二十八條ノ條則
ヲ固定擴張スルヲス

第二十九條

代議士院ノ議員ニ撰マシタル時既ニ執政官

若クハ參議官ニ拜スル者ハ亦兩職見解前條ニ兼任スヘ

シ

第三十條

何人ニテモ同時ニ兩院ノ議員ニ兼任スルコト

得

第三十一條

參議官及執政官ヲ除クノ外何レノ官職ニテ

モ貴族院若クハ代議士院ノ議員ニ任スルノ間假リニ舊
職ヲ執ルヲ止ム

第三十二條

會期ノ暇時アンタルゾル甲ノ會期ヲ閉チテ乙ノ會期ヲ開

ク時ニ國王ハ代議士院ニ其執職ヲ止メシメシテ之

ヲ王國外ニ差遣スルコト得ス但シ此レハ通常國會若ク

ハ臨時國會召聚ノ時差遣ノ任ヲ被ルニ由リ其出頭ヲ妨

シヘキ時機ニ限ルヘシ

第三十三條

國安若クハ國益ニ干涉スル不慮ノ形情アリ

テ代議士員ニ特務ミッションヲ命スルコト須要トスル時代議士院

ハ之ヲ指令スルヲ得ヘシ
増補律例第三條ニ云ク
國事ニ緊要ナル時機ニ際シ
上下各院ハ政府ノ請ニ應ジ
ト立國ノ首府ニ於テ服職
ヲ兼勤ヲ許スヲ得
得ヘシ
○建國法第三十三條
ヲ說明スルヲ如シ

第二章 代議士院

第三十四條 代議士院ハ公撰ニシテ有期ノ官ナリ

第三十五條 代議士院ハ第一租稅第二點徵ノ件ニ係リ起
イニシ

草ノ權ヲ專有ス

第三十六條 左ノ二件モ亦首トシテ代議士院ニ附スヘシ

第一 往時ノ施政ノ檢査及ヒ施政上弊害ノ改正

第二 行法官ヨリ出セル起議ノ討論
フロボシヤン シスクニヤン

第三十七條 執政官及ヒ參議官ノ劾告ヲ命令スルハ代議
士院ノ特任トス

第三十八條 代議士ハ會期ノ間舊議員任期代議士院ノ任
ルヲ第十七條ノ最終會議ニ定メタル金給ヲ受クヘシ及
ヒ特別ノ決議ヲ以テ往返旅費ヲ受クヘシ

第三章 貴族院

第三十九條 貴族院ハ國王ノ撰命シタル終身官ノ議員ト
世傳ノ議員トヲ以テ成ル定員ナシ

第四十條 儲君及ヒ王子ハ當然ノ貴族議員ナリ故ニ滿二
十五歳ニ至レハ貴族院ニ列席スルヲ得

第四十一條 左ニ舉クル者ヲ貴族院ノ特任トス

第一 王族、執政官、參議官、貴族院ノ議員ノ犯シタル諸罪事及ヒ代議士員ノ會期間ニ犯シタル罪事ヲ審斷スル事

第二 執政官及ヒ參議官ノ責任ニ關シ審斷ヲ行フ事

第三 假攝政官自ラ國會ヲ召サヅル時ハ國王殞スルニ由リ眞ノ攝政官ヲ搆制スルカ爲ニ國會ヲ徵聚スル事

第四十二條 代議士院ヨリ劾告スヘカラサル重罪裁判ニ於テハ檢事劾告ヲ行フハ代議士院ノ責任ニ在ラサル者檢事代リテ貴族院ニ劾告ス

第四十三條 貴族院ノ會期ハ代議士院ト終始ノ時限ヲ同フス

第四十四條 建國法ニ定メタル場合ヲ除クノ外凡ソ代議士ノ會期外ニ於テスル貴族院ノ集會ハ法ノ禁スル所ニシテ其効ナシトス

第四章 法律ノ起議討論制可及ヒ公布
プロボシオン、ジスクラシオン、サンクシオン
プロミュルカシオン

第四十五條 法律議案ノ起議及ヒ許否ハ上下各院ニ屬ス

第四十六條 行法權ハ執政官ノ一員ニ賴リ法律ヲ定立スルニ當リテ之ニ行法權ヲ指ス屬スル起議ノ權ヲ行フ但シ法律ヲ作ルヘキ院ヲ代議士院ニ於テ調査ヲ經ルノ後始メテ此

起議ヲ改メテ法律議案ト作スヲ得

ゾンエド、ロア

第四十七條 執政ハ委員啓告スルノ後起議ヲ論辨主張ス

コミッション

ルヲ得然レモ其貴族院若クハ代議士院ノ議員タルニ
非レハ公評シ又ハ公評ニ參スルヲ得ス

第四十八條 代議士院ニ於テ法律議案ヲ嘉納スル時ハ該

院ヨリ左ノ式文ヲ添ヘテ議案ヲ貴族院ニ移ス

「代議士院ハ別冊行法權ノ起議書加修正ヲ加ヘ又ハ貴

族院ニ送移シテ其之ヲ遂成スヘシト酌量ス」

第四十九條 代議士院ニ於テ議案ヲ嘉納セサル時ハ該院

ヨリ左ノ詞ニ於テ七名ノ代理員ヲ以テ之ヲ國王ニ奏告

ス

「代議士院ハ王ノ國益ニ注意スルノ厚キカ爲ニ感戴ス

ルノ意ヲ國王ニ證憑ス伏シ願フハ其政府ノ起議ヲ延

留スルヲ諾センヲナシ

第五十條 凡ソ代議士院ニ於テ許認スル起議ハ左ノ式文

ヲ添テ貴族院ニ移スヘシ

「代議士院ハ別冊ノ起議ヲ貴族院ニ送移シテ其制可ナ

國王ニ奏請スルヲ欲スヘシト酌量ス」

第五十一條 貴族院ニ於テ代議士院ノ許認スル法律議案

ヲ全ク嘉納セスト雖モ之ヲ改正シ或ハ之ヲ増補スル時

ハ該院ヨリ左之式文ヲ添テ原議案ヲ寄回スヘシ
「貴族院ハ別冊ノ改正及ヒ増補ヲ附シテ議案ヲ代議士
院ニ送回ス且斯ノ如クシテ後國王ニ其制可ヲ奏請ス
ルヲ欲スヘシト酌量ス」

第五十二條 貴族院ハ論議スルノ後其起議テ政府起議ニシ
可シタル議案若シハ議案草案タル議案ヲ起テ嘉納ス可カラサル
ヲ審定スルニ當リ左ノ詞ニ於テ其旨ヲ代議士院ニ陳
スヘシ

「貴族院ハ諧合スルヲ得サル某ノ起議ヲ代議士院ニ寄
回ス」

第五十三條 代議士院ハ貴族院ノ起草シタル議案ニ係リ
貴族院ニ於テ代議士院ノ議案ヲ議スルト其方法ヲ同フ
ス謂フハ前條ニ掲グルル條
規ニ循ヒ處分スルナリ

第五十四條 代議士院ハ貴族院ノ増補若シハ改正ヲ許認
スルヲ拒ミ原案ヲ以テ裨益アリト審定スル時ハ貴族
院及ヒ代議士院ヨリ平等數ノ議員ヲ拔テ理事官ニ任シ
之ヲシテ該案ヲ納ルヘキヤ若シハ斥クヘキヤヲ決定ス
其貴族院代議士院ノ増補改正ヲ拒ンテ原案ヲ主張スル
時モ亦然カリ

第五十五條 上下各院論議ヲ竭スノ後他ノ議員ヨリ之ニ

送移スル議案ヲ全ク嘉納スルニ及テハ該案ヲ定案
ヲ定案トシテ法律トナルノ後始メト名ク之ヲ會議ノ席ニ於テ展讀ス
ルノ後議長及ヒ書記官二名ノ手署シタル副本二冊ヲ國
王ニ奏呈シ左ノ式文ニ由リ其制可ヲ仰ク

「國會ハ王國ニ裨益アリト自信スル別冊定案ヲ國王ニ
奏上ス願クハ陛下ノ之ヲ制可セソフナリ」

第五十六條 定案ノ奏上ハ最終ニ議決シタル議院ヨリ七
名ノ委員ヲ送遣シ之ヲ行フ該議院ハ定案ヲ奏上スルト
同時ニ該定案ヲ起草シタル議院ニ向ヒ某件ノ起議ハ本
院嘉納スルノ後其制可ヲ得ンガ爲ニ之ヲ國王ニ奏呈ス

ル旨ヲ通知ス

第五十七條 國王ハ定案ノ制可ヲ拒ミタル時左ノ詞ヲ以
テ勅答スヘシ

「國王ハ便宜決定センカ爲ニ法律議案ヲ熟慮セソフナ
望ム」

議院ハ勅答ニ對シ左ノ答辭ヲ上ルヘシ

「議院ハ陛下ノ國家ノ爲ニ謀猷スル所アルヲ奉謝ス」

第五十八條 前條ニ舉クル國王ノ拒否ハ純全ノ効アリト
ス王一タヒ定案ヲ拒メ
ハ復タ反スヲ得ス

第五十九條 國王ハ定案奏呈ノ日ヨリ一ヶ月内ニ其制可

ヲ許否ス

第六十條 國王ハ國會ノ議案ヲ許允スル時左ノ勅語ヲ下ス

「國王承允ス」

議案ハ其制可ヲ得ルノ後始メテ王國ノ法律トシテ之ヲ公布スルヲ得

議案ノ二其一本ハ國王署名スルノ後之ヲ奏呈シタル議院ノ書庫ニ藏メ一本ハ當該執政官奉行スル所ノ法律公布ノ用ニ供スル後之ヲ「シアルチエ」塔樓ニ收藏スヘシ

第六十一條 法律公布ノ式文ハ左ニ掲クル者ヲ用ユヘシ

「神明ノ惠ニ頼リ葡萄牙兼亞利牙爾威等ノ國王タル某

左ニ掲クル法律ヲ國會判定シテ朕許允スル旨汝衆庶

ニ誥ク故ニ朕今此法律ヲ認知執行スヘキ總官廳ニ向

ヒ各々之ヲ執行シ及ヒ之ヲ執行恪守セシメテ苟モ缺

遺スルコトナキヲ命令ス某務當該ノ省名ノ執政官之ヲ加記ス

印刷公布頒行セシムヘシ」

第六十二條 當該執政官副署シテ王璽ヲ捺印シタル國王手署ノ法律ハ「シアルチエ」塔樓ニ藏ムヘシ其印本ハ王國ノ各院省裁判所及ヒ其公布スベキ所ニ頒行スヘシ

第五章 選舉ノ事

第六十三條ヨリ第七十條ニ至ル此八條ヲ廢棄シ千八百五十八例第四第五第六第七第八第九條ヲ充補シタリ

增補律例第四條

代議士員ヲ命スルハ直接撰舉ヲ以テス

第五條

凡ソ民權政權ヲ兼有スル葡萄牙國人ハ左件ヲ證明スルニ由テ撰舉人トナル

第一 土地、資金、貿易上若シハ工業上ノ益利ヨリ生シ及ヒ轉移スヘカラサル官吏ノ司法官ノ俸給ヨリ生スル歳入ノ純益金諸費ヲ引去リ十萬レ一貨幣ノ名六萬レ一ハ六

百十二「フ」ヲ有スル者
ラ「ン」ナリ

第二 法律ニ認メタル成年二十歳ニ至レル者

甲 二十一歳ニシテ左ニ掲クル分限ノ一ヲ有ス

ヘキ者ヲ見做シテ成年トナス

一 聖會ノ僧徒
オルドル、サクレ

一 婚姻シタル男子

一 陸海軍ノ士官

一 法律ニ準スル大學クラシコエ生ノ得業生

乙 大學クラシコエ生ノ得業生トナリタル國民ハ總テ撰舉ノ定稅撰舉人トナルカ爲ニ須ノ保證ヲ爲スヲナシ定稅撰舉人トナル納租ノ額ノ保證ヲ爲スヲナシ

要セス

第六條

左ニ舉クル者ハ議員ハ投撰スルノ權ヲ失フ

第一 雇役スル者但シ掌簿人、商家ノ主^シ管、王家ニ奉仕

スル者及ヒ田地並ニ製造所ノ管守人ハ此限ニアラ

ス

第二 治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ陪審官ノ許認シタ

ル勅告ヲ被リ若クハ終審ノ裁判ヲ受ケタル者

第三 奴隸^{アツフランシー}ノ釋放セラレタル者

第七條

凡ソ投撰ノ權ヲ有スル者ハ亦代議士員ニ投撰セラレ、

ヲ得ヘシ別ニ本住^{ドミナル}法律ニ認メ^{レシ}寄住^{レシ}獨^ク其^ノ身^ヲ地^ノ若クハ生

産地等ノ要款ヲ設ケスハ本邑ニ幾年以上住居スルニ非

ル等ノ制ナ

キヲ云フ

左ニ舉クル者ハ代議士員ニ撰マル、ヲ得ス

第一 歸化シタル外國人

第二 此増補律例第五條ニ舉クル資本ヨリ生スル歲

入ノ純益金四十萬^レ即チ二千四百^ナナリ有セサル

者若クハ同條ノ乙項ニ掲グル大學費ノ品級ヲ得サ

ル者

第八條

代議士ヲ投撰スルノ權ヲ有セザル者ハ總テ政府官僚ノ撰舉ニ參與スルコトヲ得ス

第九條

選舉法ハ左ノ條件ヲ規定スヘシ

第一 選舉ノ規程及ヒ王國ノ人口ニ比率スル代議士ノ員數

第二 代議士ノ職ト兼勤スヘカラサル官職

第三 國民ノ中テ其公務ヲ履行スル爲メニ代議士員ニ撰マレサル時機

第四 王國大陸ノ諸州王國附近ノ州及ヒ海外所屬ノ

州ニ於テ撰舉定税ノ保證ヲナスヘキ方法及規程

第五 撰舉人タルヘキ年齡滿二十ヲ補足シ及ヒ撰舉

定税ノ保證ヲ釋サルヘキ大學賢ノ品級

建國法第六十三條ヨリ第七十條ニ至ルヲ廢止シ更ニ充補スルコトヲ如シ

第五篇 國王

第一章 節制權

第七十一條 節制權ハ總テオルカニサシオンゴリツク國家制度ノ鎖鑰ナリ故ヲ以テ常ニ他ノ諸大權司法行政立ノ不羈均勢調和ノ保存ヲ看

守スルカ爲ニ特ニ之ヲ國民ノ首長タル國王ニ歸屬セリ
第七十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責
任トスル所ナシ

第七十三條 國王ノ尊號ハ海ノ内外ニ對シテハ「葡萄牙兼
亞利牙爾威國王」ト稱シ亞非利加洲ニ對シテハ「グユイチ
」公兼「エチオピア」波斯「印度」等ノ渡航並ニ貿易ノ君長ト
稱ス

國王ハ「甚篤信スル陛下」ノ尊稱ヲ有ス

第七十四條 國王ハ左件ニ由テ節制權ヲ執行ス

第一 貴族議員ヲ命ジテ定員無キ事

第二 國益ノ爲ニ須要トスル時會期ノ暇時ニ於テ臨
時ニ國會ヲ召聚スル事
アシラブル

第三 國會ノ定案及ヒ判決ヲ制可シテ之ニ法律ノ力
ヲ與フル事

第四 國會ヲ催徴シ若クハ之ヲ延期スル事及ヒ國安
ノ爲ニ須要トスル時機ニ於テ代議士院ヲ散解スル
事但シ此時ハ之ニ代ルベキ他ノ代議士院ヲ即時ニ
召聚スベシ

第五 任意ニ執政官ヲ除任免黜スル事

第六 第二百一十一條ノ時機ニ於テ裁判官ヲ停職スル

事

第七 裁判官ノ斷案ニ因リ處決セラレタル罪人ノ刑ヲ赦シ若クハ減等スル事

第八 緊急ノ時機ニ際シ及ヒ仁惠並ニ國益ノタメニスル時ニ於テ大赦ヲ行フ事

第二章 行法權

第七十五條 國王ハ行法權ノ首長ナリ而シテ執政官之ヲ受用ス

行法權長ノ職掌ハ大約左ノ如シ

第一 葡萄牙王國ニ於テハ現時ノ議員任期ヨリ第四

年ノ三月二日ニ至リ通例ノ新國會ヲ徵聚スル事但

シ王國所屬ノ地ニ於テハ更ニ一歳ヲ早クス

第二 「エヴン」教長ヲ叙任シ及ヒ僧官ヲ授與スル事

第三 裁判官ヲ命スル事

第四 其他ノ民事國事ノ職務ヲ備設スル事

第五 陸海軍ノ指揮官ヲ命シ及ヒ國益ノ爲ニ要スル所アル時ハ之ヲ免スル事

第六 全權公使及ヒ外國交際並ニ貿易ニ關スル其他ノ官僚ヲ命スル事

第七 外國ト取結ベル國事條約ヲ指揮スル事

第八

攻敵條約防敵條約及國連合シテ外敵ヲ攻撃助

金條約外國ヲ扶助及ヒ貿易條約ヲ制定スル事但シ

國益國安ノタメニ要スル所アル時ハ該條約取結ヒ

ノ後之ヲ國會ニ通知ス

平和ノ時ニ於テ取結ヒタル條約ノ王國ノ州地或ハ

所屬地ノ讓與若クハ其境域變易ニ關スルモノハ國

會ノ許認ヲ得ルノ後ニ非レハ執行スヘカラス

第十條ニ云ク凡ソ政府ニ於テ外國ト取結フヘキ諸

項認テ受クヘシ○建國法第七十五條第八

第九 國益國安ト相關カル報照ヲ議院ニ送移シテ戰

ヲ宣シ和ヲ講スル事

第十 法律ニ定メタル規程ニ循ヒ歸化免狀ヲ與フル

事

第十一 國家ニ勳勞アルガ爲ニ爵稱武階號章及ヒ褒

ヲ賜與スル事但シ未ダ法律ニ由リ設置限定セサル

金貨ノ褒賞ハ議院ノ許認ヲ需テ後賜與ス

第十二 法律ノ執行ヲ充分ニスルカ爲メ王勅訓狀及

ヒ條例ヲ發布スル事

第十三 國會ノ議決ニ由リ施政各局ニ準備シタル資

金ノ享用ヲ規定スル事

第十四 教僧議會ノ訓令羅馬教皇ヨリ發出スル諸訓

命其他總テ建國法ニ悖ラサルコンスタチニシオンエクレジヤスチク教會律典僧徒ノ教法規律

許認ヲ允否スル事但シ此等ノ發布文書ニ全國一般

ニ關スル條規ヲ含メルキハ國會ノ許認ヲ需ツ

第十五 建國法ニ依據シテ王國內外ノ安寧ニ關スル

諸般件ヲ辨濟スル事

第七十六條 國王ハ即位宣告前ニ上下兩院會合ノ席ニ於

テ貴族院ノ議長ニ左ノ誓詞ヲ宣フヘシ

余ハ羅馬正教ヲ篤信シ王國ノ完全ヲ保存シ葡萄牙建

國法其他ノ諸法律ヲ遵守シ且國民ヲシテ之ヲ遵守セ

シメ及ヒ力ヲ竭シテ王國ノ公益ニ辨濟センコトヲ誓
約ス

第七十七條 國王ハ國會ノ承允ナクシテ葡萄牙王國外ニ

出ツルヲ得ヘカラス若シ國會ノ承允ナクシテ國界ヲ出

ツレハ王位ヲ辭スルト見做スヘシ

第三章 王族及ヒ王族ノ歲入

第七十八條 王國ノ世嗣ハフランスロワイヤル儲君ノ長子ハ「ベイラ」葡國

名公其他ノ諸子ハアンファン王子ノ遵號ヲ有スヘシ又儲君及ヒ「ベ

イラ」公ハアルテッス、ロワイヤル「殿下」ト稱シ諸王子ハアルテッス「閣下」ト稱スヘシ

第七十九條 世嗣ハ滿十四歳ニ至リ上下兩院會合ノ席ニ

於テ貴族院ノ議院ニ左ノ誓詞ヲ宣フベシ

余ハ羅馬正教ヲ篤信シ葡萄牙建國法ヲ遵守シ及ヒ法律ト國王ニ恭從センコトヲ誓フ

第八十條 國會ハ國王即位ノ後速カニ其高爵ニ當應ナル

歲入即チ宮費チ國王并ニ王后ニ捧シ

第八十一條 國會ハ儲君及ヒ王子生ル、トキ其ソノ養料ヲ定

第八十二條 公主婚チ約スルキ國會ハ其嫁粧ヲ指定スヘ

シ但シ公主ノ養料ハ之ニ嫁粧ヲ捧シヘキ日ヨリシテ廢止スヘシ

第八十三條 凡ソ約婚シ王國チ出テ、外國ニ行クヘキ王

子ハ國會ニ於テ定メタル金額チ受クヘキコト一回ニ過キス但シ其養料ハ同時ニ廢止スヘシ

第八十四條 前數條ニ掲クル歲入養料及ヒ嫁粧ハ國庫ヨ

リ給シ之チ國王ノ命シタル執事官ニ交付スヘシ但シ該執事官ハ原告被告ヲ論セス凡ソ王家ノ事ニ關スル詞訟

ヲ理辨スヘシ

第八十五條 現今國王ノ所有スル宮殿並ニ土地ハ永ク今

王ノ承繼者ニ屬スヘシ國會ハ國王ノ便宜若クハ嬉遊ノ爲ニ須要ナル買辨并ニ營築ヲ看守スヘシ

第四章 王位承繼

第八十六條 「マリア」第二世陛下ハ神明ノ惠ニ頼リ及ヒ巴西皇帝陛下「ペドロ」第一世ノ端正ナル遜位ニ由テ葡萄牙國ノ女王トス

第八十七條 「マリア」第二世ノ正統裔ハ嫡長ノ序ニ循ヒ承^{ハレ}重^レノ權^レ嫡^レ今^レ王^レ殂^レシテ太子ナキハ其ニ由リテ王位ヲ入嗣^ススヘシ但シ尊系ハ卑系ニ先^ニタチ同系^ト傍系^ト傍系^ト及ヒ^ハ系^ナニ於テハ近族疎族ニ先^ニタチ同族^ト兄弟姉妹^ハニ於テハ男女ニ先^ニタチ同類^ト兄弟^ト及ヒ姉^ト妹^トニ於テハ長少ニ先^ニタツ

第八十八條 「マリア」第二世陛下ノ正統裔ノ系^{即チ}絶ルハ

傍系ノ親ヲシテ王位ヲ嗣カシムヘシ

第八十九條 外國人ハ決シテ葡萄牙國王ノ位ヲ入嗣スルコトヲ得サルヘシ

第九十條 王位ノ承繼者ナル公主ノ婚約ハ國王ノ許允ヲ待ツヘシ但シ決シテ外國人ト婚スルコトヲ得ス若シ公主ノ婚ヲ約スルハ國王在サ、レハ國會ノ許認ヲ經スシテ婚儀ヲ行フコトヲ得ス

女王ノ配偶者ハ國政ニ與カルヘカラス但シ其女王ニ男子若クハ女子ヲ舉クルコトアルハ該配偶者ハ國王ノ尊稱

ナ有スヘシ

第五章 國王未成年ノキ若クハ故障ノアル時機ニ於ル攝政職ノ事

第九十一條 國王ハ滿十八歳ニ至ルマテ未成年トス

第九十二條 國王未成年ノ間ハ攝政官ヲシテ王國ヲ管治セシム而シテ攝政官ハ王位承繼ノ序ニ循ヒ國王ノ最親ニシテ且齡二十五歳以上ノ成年者ニ屬スヘシ

第九十三條 若シ前條ノ要款ヲ具備セル親族ナキハ國會ノ撰任シタル常設攝政官ヲシテ王國ヲ管治セシムヘシ但シ該攝政官ハ僚員三名ヲ以テ成リ其年齡最モ長ス

ル者ヲ議長ニ充ツヘシ

第九十四條 未タ攝政官ヲ設置セサル間ハ相國ミニストル司法卿及

ヒ參議ノ在職最モ久キ者二名ヲ以テ構制スル假攝政官王國ヲ管治スヘシ其議長職ハ未亡人タル王后ニ委ス其缺ルハ之ヲ參議官ノ最高齡者ニ授ク

第九十五條 攝政職タル女王缺クルキハ其配偶者ヲ以テ攝政官ノ議長トナスヘシ

第九十六條 國會各院ノ多數ニ因リ明瞭ト認メタル外形ノ緣由疾病ノ類若クハ心性ノ緣由狂癲ノ類爲ニ國王政ヲ親ラズルヲ得サルキ儲君既ニ滿十八歳ナレハ攝政トナリ代

リテ國政ヲ統治スヘシ

第九十七條 攝政一員ニ及ヒ攝政官數員ニハ國王ニ忠誠

ナルヲ誓ヒ及ヒ國王ノ成年ニ至リタルキ或ハ國王政

ヲ親ラスルヲ能ハザルノ狀止ミタルキハ國政ヲ奉還ス

ルヲ誓約スト云ヘル語ヲ増加シテ第七十六條ニ掲グル

誓詞ヲ宣フベシ

第九十八條 攝政官及ヒ攝政ノ政令ハ左ノ例文ニ循ヒ國

王ノ名ヲ以テ作ルヘシ

攝政官國王ノ名ニ於テ命令ス或ハ儲君國王ノ名ニ於

テ命令ス

第九十九條 攝政官及ヒ攝政ハ責任トスル所アルヘカラ

ス

第一百條 世嗣未成年ノ間ハ父王ノ遺命ニ由テ指名シタル

者ヲ以テ太保ニ任スヘシ其遺命ナキキハ攝政トナリタ

ル太后ヲ以テ之ニ任ス太后亦缺ルキハ國會ニ於テ太保

ヲ撰命スヘシ又未成年ナル國王ノ太保職ハ決シテ該國

王ノ缺ルキ王位ヲ承繼スヘキモノニ授與スルヲ得ヘ

カラス

第六章 執政官

第一百一條 諸執政局ヲ設置スヘシ但シ法律ニ由リ執政各

局ニ於テ管治スル事務并ニ局數ヲ定メ及ヒ適宜之ヲ分
合スヘシ

第百二條 執政ハ總テ行法權ノ政令ニ副署シ若クハ手署
スヘシ執政ノ副署若クハ手署ナキ政令ハ執行スルコトヲ
得ス

第百三條 執政ハ左件ノ爲ニ其責ニ任ス

第一 叛逆

第二 收贓誘惑コルユブシカシニユボルナシヨシ人ヲ迷惑シテ邪若クハ枉歟コソクニシヨシ

第三 擅權

第四 法律ノ違戾

第五 凡ソ國民ノ自由安寧若クハ所有ヲ害スル措置

第六 國入ヲ冗費スル事

第百四條 前條ニ掲クル犯罪ノ性質重罪事ノ輕及ヒ其糺治
ノ方法ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第百五條 執政ハ縱令ヒ言辭若クハ文書ヲ以テスル王命
アルモ其責任ヲ免カル、ヲ得ス

第百六條 外國人ハ既ニ歸化スルモノト雖モ執政ニ任ス
ルコトヲ得ス

第七章 參議院

第百七條 參議院ハ國王ノ撰ム所ニシテ終身官ニ任スル

僚員ヲ以テ成ル

第百八條 外國人ハ其歸化スル者ト雖モ參議官ニ拜スル
ヲ得ス

第百九條 參議官ハ職ニ就クノ前國王ニ向ヒ羅馬正教ヲ
篤信シ建國法并ニ法律ヲ遵守シ國王ニ忠誠ヲ盡シ及ヒ
國益ヲ專思シ誠意以テ國王ヲ啓沃スルヲ誓フヘシ
第百十條 參議官ハ總テ重要事件并ニ施政ノ總例規就中
宣戰講和外國トノ契約及ヒ凡ソ國王七十四條ニ掲クル
節制權ニ係ル職務ヲ自ラ執行セントスル時機ニ於テ之
ニ參與スヘシ但シ第七十四條第五項ハ之ヲ除ク

第百十一條 參議官ハ法律及ヒ國益ニ悖リテ奏聞スル所
ノ意見若クハ詭詐明白ナル意見ノ爲メニハ其ノ責ニ任
ス

第百十二條 儲君ハ滿十八歳ニ至リテ參議院ニ參入スヘ
キヲ勿論ナリ其他ノ王子ハ國王ノ撰命ニ因ルノ外該院
ニ參スヘカラス

第八章 兵力フホルスミリテール士官兵丁

第百十三條 凡ソ葡萄牙人ハ王國ノ獨立完全ヲ保テ及ヒ
内外ノ敵仇ニ抗シテ防禦ヲ爲スカ爲メニ兵役ニ服スル
ノ義務アリ

第十四條 國會ニ於テ陸海軍ノ兵力ヲ限定セサル間ハ
該國會ノ之ヲ増減スルノ日ニ至ルマテハ一ニ目今ノ制
ニ仍ル

第十五條 兵力ハ最モ恭順ナルヘシ又兵力ハ正當ナル
官府ノ命令ヲ受クルニ非スシテ集合スルヲ得ス

第十六條 王國ノ平安及ヒ保護ノ爲ニ要スル所ニ從ヒ
陸海軍ノ使役スルハ特ニ行法權ニ屬ス

第十七條 陸海軍ノ構制昇級俸給及ヒ軍律ハ特別ノ王
勅ニ因テ之ヲ規定スヘシ

第六篇 司法權

第一章 裁判官及ヒ裁判所ノ事

第十八條 司法權ハ不羈獨立ニシテ法典ニ定ムル時機
ニ際シ及ヒ之ニ定ムル規程ニ循ヒ民事並ニ刑事ヲ審理
スル裁判官及ヒ陪審之ヲ執行スヘシ

第十九條 陪審ハ訴件ヲ決判シ裁判官ハ法律ヲ擬準ス

第二十條 司法司シニシエドロー其律ヲ擬シテ罪ヲ決セス故ニ司法司ト名ク
ハ轉移スヘカラスニ終身官然レモ法律ニ定メタル時機ニ
際シ及ヒ之ニ定メタル方法ニ循テ裁判官ヲ免黜スルヲ
得ヘシ

第二十一條 司法司ヲ訴告スル者アルハ國王之ヲ聽キ

仍ホ參議院ノ意見ヲ問フテ後之ヲ停職スルヲ得但シ該
訴告ニ關スル書類ハ被告ノ法司屬スル所ノ州裁判所ニ
移シ法律ニ循ヒ以テ處行セシムベシ

第二百二十二條 被告ノ法司ハ裁判所ノ決案ニ因ルノ外其
職ヲ剝奪セラル、コナカルベシ

第二百二十三條 凡ソ法司及ヒ區裁判司等ハ擅權若クハ其
職務服行ニヨリテ犯セル私行ノ責ニ任ス但シ此責任ハ
定規ノ法律ニ由リ實行スヘシ

第二百二十四條 法司下等判司等誘惑收贓官^{ベグニラー}金私用及ヒ枉
歛ノ罪事アルキ人民ヨリ訴告スルコトアルヘシ但シ該訴

告ハ法律ニ定メタル訴訟手順ニ依據シ犯罪ノ日ヨリ滿
一年內ニ被害入若クハ其他ノ人民之レヲ行フコトヲ得ヘ
シ

第二百五條 國民便宜ノ爲ニ須要トナスヘキ裁判所^ナ即
控訴裁^ナヲ王國ノ州内ニ設置シ以テ再審及ヒ終審ノ詞訟
ヲ聽斷スベシ

第二百二十六條 刑事ニ於テハ證人ヲ推問其他總テ効告ノ
後ニ係ル訴訟手續ノ件ハ公行スヘシ

第二百二十七條 民事訴訟及ヒ民事ニ係ル審糾ニ於テ原被
雙方ノ者ハ判者^ナ人民自ラ有德者ヲ撰^ミテ裁^ナヲ命スルコト

ヲ得ヘシ但シ原被告人豫メ相約定セシコトアルキハ直チニ判者ノ裁斷ヲ執行シテ控訴セサルヘシ

第二百二十八條 何レノ詞訟ト雖既ニ勸解ヲ經由スルコトナ

憑據セサレハ之ヲ受理スヘカラス

第二百二十九條 勸解ヲ行フカ爲ニ勸解判司ヲ置クヘシ但

シ該判司ハ邑會ノ僚員ト在職ノ年限ヲ齊フシ且之ト同

一ノ規定ニ循テ撰舉スヘシ又勸解判司ノ職掌并ニ所管

裁判權ヲ行フ土ハ法律ニ由テ規定スヘシ

第三百十條 王國ノ首府ニ於テハ他州ト同ク尋常裁判所

ヲ設置スル外仍ホ大法院ト名クル裁判所ヲ置クヘシ但

トリビニナルシニフレムトシニスチス

ホ

シ大法院ハ在職ノ年序ニ循ヒ州裁判所ヨリ撰拔シタル裁判官及ヒ法律學士ニシテ參議官ノ稱ヲ有スル者ヲ以テ構成ス

大法院ヲ新置スルニ際シテハ當ニ廢止スヘキ裁判所ノ僚員ヲ以テ大法院ノ官吏トスルコトヲ得ヘシ

第三百十一條 大法院ノ權任ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 法律ニ定メタル時機ニ際シ及ヒ之ニ定メタル

方法ニ循ヒ覆審ヲ許允シ若クハ否拒スル事

第二 大法院并ニ州裁判所ノ法官及ヒ外國交際ノ官

僚等公使 其職事服行ニ於テ犯ス所ノ罪事及ヒ失錯ヲ

審理スル事

第三 州裁判所相互ノ間ニ生シタル裁判所轄區抵觸ノ訴及ヒ其權限抵觸ノ訴ヲ受理スル事

第七篇 州政

第一章 施政ノ事

第一百三十二條 州ノ施政ハ新法律ニ因リ改正スルノ日ニ至ルマデ現今ノ制ニ仍ルヘシ

増補律例第十五條

海外所屬ノ州ハ各州ノ便宜ニ循ヒ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ統治スルヲ得ベシ

第一 國會ノ未タ開會セサル時政府ハ當該ノ部官ニ諮詢セシ後緊急ト酌量スヘキ立法上ノ處分ヲ參議院ニ謀リテ命令スルヲ得ヘシ

第二 海外所屬ノ州ノ總管府モ亦州議會ノ意見ヲ問ヒシ後國會若クハ太政府ノ決裁ヲ待ツヲ能ハサルヘキ總緊急件ニ備フルカ爲ニ須要ナル處分ヲナスヲ得ヘシ

第三 右兩件ノ場合ニ當リ政府ハ國會ノ開會スルニ及ンテ速カニ其處分セシ所ノモノヲ之ニ開具スヘシ

第二章 議會ノ事

第百三十三條及ヒ第百三十四條此二條ヲ廢止シ增補律例第十一條ヲ充補スルコト左ノ如

增補律例第十一條

各邑ニ於テ國民ノ直接ニ公撰シタル邑議會ハ法律ニ依據シテ理財務ヲ執行スヘシ

建國法第百三十三條第百三十四條ニ廢止シテ更ニ充補スルコト斯ノ如シ

第百三十五條 邑務ノ執行警察條例ノ定立、邑税ノ享用、邑官ノ職掌ハ法規ノ法律ニ依テ規定スヘシ

第三章 國租

第百三十六條 國租ノ出納ハ國庫ト名クルトレブルビユフリク法衙ニ委任スヘシ該法衙ニハ法律ニ依リ適宜ニ定メタル諸局ヲ置テ國租ノ管理、收徵及ヒ理財法ヲ規定スヘシ

第百三十七條 國債ノ利子并ニ其還償ニ供備スヘキ租税ヲ除クノ外凡ソ直税ハ每歲國會ニ於テ規定スヘシ然レモ該直税ヲ廢止シ若シハ改置スルノ日ニ至ルマテハ舊ニ仍テ之ヲ存置ス

第百三十八條 大藏卿ハ他省ノ卿ヨリ本省ノ支費豫算表ヲ交收シ國會ノ集合スヘキ毎歲代議士院ニ國庫前年

ノ出納總決算表及ヒ明年ノ國費並ニ總租稅國入ノ總豫
 算表ヲ具送スベシ 公增補律例第十二條ニ云ク租稅ハ一歲ヲ
 限リ之ヲ施行スル公費ノタメニ用途金ヲ支件ノ用途金ニ特
 シ用ユルヲ云ク許認スルノ外他件ノ支費ニ享用スル
 ナ得ス項第一〇國入ノ管理及ヒ收歛ハ法律ニ定メタル時
 例ヲ除キ皆國庫ニ於テ之ヲ施行ス項第二〇法律ニ由リ其
 構制職掌ヲ規定スルキ會計法院ヲ置クベシ項第三〇第十
 三條ニ出納豫算表ヲ該議院ニ送付スベシ十五日內ニ其設
 ヲ一月内ニ前年ノ決算表亦之ニ送付スベシ如シ
 建國法第八篇 總規則及ヒ葡萄牙國民ニ屬スル政權民權
 ノ保固

第三百三十九條 國會ハ會期ノ始メニ於テ王國建國法ヲ精

密ニ遵守シタルヤ否ヤヲ查檢シ及ヒ建國法ヲ遵守セシ
 ムル例規ヲ嚴令スルハ增補律例第十四條ニ云ク國會ノ各院
 一件ヲ查檢スルノ權ヲ有ス〇建國法第三十六條第
 一項及ヒ第三百三十九條ヲ集成スルヲ斯ノ如シ
 第四百十條 王國ノ建國法ヲ誓約シタル日ヨリ四年ノ後
 ニ建國法中ノ條目ヲ修正スベキヲ認ムルキハ文書ヲ
 作リテ之ヲ起議スベシ但シ該起議ハ代議士院ニ於テ稿
 ナ起シ同院ノ總議員三分ノ一之ヲ主張スベシ
 第四百一十一條 前條ノ起議ハ各展讀會コトニ六日ヲ隔テ
 三回之ヲ讀了スベシ而シテ第三展讀ノ後代議士院ハ
 法律制定ノ爲メニ定ムル例ニ依據シ該起議ヲ討論ニ附

シスクニシオン

スルヲ得ヘキヤ否ヤヲ論決スヘシ

第四百十二條 起議ヲ討論ニ附シテ建國法ノ條目修正ヲ
須要トスルヲ認ムルキハ次ノ議員任期ニ於テ今起議
シタル建國法ノ改竄若クハ改正ノ特任ヲ授クルヲ議
員撰舉人ノ命令スヘキ法律ヲ作ルヘシ但シ該法律ハ通
常ノ規程ニ準シ國王之ヲ制可公布スヘシ

第四百十三條 次ノ議員任期ノ第一會期ニ於テ起議ヲ決
議ニ付スヘシ但シ建國法ノ改易若クハ増補ヲ許認スル
キハ建國法ニ改竄ヲ加ヘテ端正ニ之ヲ公布スヘシ

第四百十四條 大權ノ權域并ニ職掌ニ係リ及ヒ國民各個

ノ權理ニ當應スル者ノ外ハ建國法章トセス凡ソ建國法
ニ戻ソル件ハ前數條ニ掲クル諸規式ヲ踐履セザルモ通
常議員任期ニ因テ之ヲ取消スヲ得 謂フハ現任ノ議員
法ノ條款ヲ取消ス
ノ權ヲ有スルナリ

第四百十五條 自由、各個安寧及ヒ所有權ヲ基礎トスル葡
萄牙國民ノ政權民權ヲ侵害スベカラサルヲハ王國建國
法ニ因リテ之ヲ保固スルヲ左ノ如シ

第一 凡ソ國人ハ法律ニ依ルノ外或ハ疆テ之ヲ爲サ
シメ或ハ疆テ之ヲ止メシムル等ノヲアルベカラス
第二 法律ノ條規ハ其効ヲ既往ニ及ボスヲアルベカ

ラス

第三 凡ソ國人ハ言辭文書ヲ以テ其思想ヲ交通シ及
ヒ監査ヲ受クルコトナク思想ヲ印刷頒行スルコト得
但シ思想自由ノ權ヲ受用スルニ因リ犯ス所ノ罪ア
ルキハ法律ニ定メタル時機并ニ規程ニ循ツテ其責
ヲ受クヘシ

第四 凡ソ國人ハ國教羅馬正教ヲ尊重シ及ヒ行儀ヲ破犯
スルコトナケレハ各々自ラ信奉スル宗教ノ爲メニ妨
害ヲ受クルコトナシ

第五 凡ソ國人ハ王國ニ居住シ或ハ警察法ニ依據シ

其財産ヲ合セテ任意ニ王國ヲ退去スルコト得然レ
モ此レカ爲メニ他人ノ權理ヲ犯スヘカラス 債ヲ負
テ國ヲ逃去スヘカ
ラサル等是ナリ

第六 凡ソ國民ハ其家屋ヲ以テ安身不侵ノ棲處トナ
ス故ニ家主ノ承允ナク若クハ家内ヨリ招キ呼フコ
トナク又ハ火災水害ヲ防禦スル爲ニ非スシテ夜間人
家ニ進入スルコト得ス

第七 何人モ法律ニ掲グル場合ヲ除クノ外之ヲ拿捕
スルコト得ス拿捕スル場合ニ於テハ裁判官自ラ署
名シタル文牒ヲ以テ拿捕スル理由及ヒ勅告者并ニ